

令和7年度

全国学力・学習状況調査

－ 結果の概要 －

令和7年11月
石川県教育委員会

目 次

I 調査の概要

1	調査の目的	1
2	調査の対象	1
3	調査の内容	1
	(1) 教科に関する調査	
	(2) 質問調査	
4	調査の方式	1
5	調査日	1
6	調査を実施した本県公立学校数・児童生徒数	1
	[本書における留意事項]	2

II 調査の結果

1	都道府県別ノート	4
2	教科に関する調査の結果	7
	(1) 各教科の状況	8
	《小学校第6学年 国語》	
	《小学校第6学年 算数》	
	《小学校第6学年 理科》	
	《中学校第3学年 国語》	
	《中学校第3学年 数学》	
	《中学校第3学年 理科》	
	(2) 学校の分布状況	3 4
	(3) 平均正答率の全国との差の変動	3 6
3	質問調査の結果	3 8
	(1) 児童生徒質問調査	3 8
	(2) 学校質問調査	5 1

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- ・中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語 算数・数学 理科	① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等 ※ 調査問題では、上記①と②を一体的に問う
-------------------	--

(2) 質問調査

児童生徒質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査日

令和7年4月17日（木）

※中学校理科及び質問調査については、オンライン方式のため、学校ごとに分散して実施

6 調査を実施した本県公立学校数・児童生徒数（義務教育学校、特別支援学校を含む）

区分	小学校第6学年	中学校第3学年
学校数	192校	86校
児童生徒数	8,584人	8,140人

[本書における留意事項]

1 語句について

語 句	説 明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均。
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。
パーセンタイル	データ全体を小さい順に並べたときに、ある値が下から数えて何%の位置に相当するかを表す数値。
I R T	項目反応理論。児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさしで比較できる。
I R Tスコア	I R Tに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。
I R Tバンド	I R Tスコアを1～5の5段階に区切ったもので、平均バンドは3、最も高いバンドは5となる。
問題の難易度	5段階で表示し、非公開問題も含めた正誤状況に基づいて分析し、事後的に付与したもの。例えば、難易度3の問題はI R Tバンド3の児童生徒がおおよそ（約8割の確率で）正答できると推定される。

2 数値について

○平均正答率等の数値については、国・県ともに公立学校の結果から算出した数値を記載している（国立・私立を含まない）。

3 到達状況の表記について

○平均正答率の比較については、国や県の平均正答率との差が、±5%以上（以下）は上回る（下回る）、±2%以上（以下）～±5%未満はやや上回る（やや下回る）、±2%未満は同程度と表記した。

○国が公表した過去の調査結果を参考にして、正答率の状況により、児童生徒の到達状況を下表のように表記した。

正 答 率	「到達状況」を示す記号、用語
90%以上の場合	◎：良好である
80%以上～90%未満の場合	○：概ね良好である
70%以上～80%未満の場合	◇：基準に到達している
60%以上～70%未満の場合	▽：十分とはいえない
60%未満の場合	▼：不十分である

4 調査結果の解釈等について

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

本調査の結果においては、教科ごとの平均正答率等の数値、または平均IRTスコアを示しているが、これらと分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価する必要がある。

また、本調査結果の活用については、個々の設問や領域等に目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

5 調査結果の算出方法について

平成29年度から文部科学省は、全国の平均正答率を小数第一位までの小数値、県の平均正答率を整数値で公表している。

本資料における調査結果については、文部科学省から公表された数値を使用している。ただし、II 1(3)「平均正答率の全国との差の変動」の資料作成に当たっては、文部科学省から公表された全国の平均正答率を小数第一位で四捨五入した整数値とし、本県の整数値の平均正答率と比較する本県独自の算出を行っている。そのため、精緻な数値での状況と異なる場合もある。

【参考】

[「中学校理科」 IRTを用いた結果返却に関する動画・リーフレット：文部科学省](#)

- ・ [令和7年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」IRTを用いた結果返却について（動画）](#)
- ・ [令和7年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」IRTを用いた結果返却について](#)
- ・ [令和7年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」個人票 リーフレット](#)
- ・ [令和7年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」調査結果（個人票）の見方](#)

II 調査の結果

1 都道府県別ノート

《都道府県別ノートの見方》 ※文部科学省より公表された資料
ノートの特徴

- 箱ひげ図や四分位層等の分布や習熟度が目配りした統計表やグラフ、学力・学習状況等について多面的な分析を行うための結果チャートを掲載。
- 教科調査の分布や質問調査の結果等について文章で記載。

※各項目の数値は、基本的に有効数字3桁で表記。ただし、中学校理科の全国（公立）IRT スコアは7/14
公表資料に合わせた表記、各都道府県・指定都市の平均は実施概況（全国）に合わせた表記。

【箱ひげ図】

- 外れ値（下記から外れた値）
- 第1四分位～第3四分位の1.5倍の長さ位置する値
- 第3四分位（75パーセントイル）
- 中央値（第2四分位（50パーセントイル））
- 第1四分位（25パーセントイル）
- 第3四分位～第1四分位の1.5倍の長さ位置する値
- 外れ値（上記から外れた値）

【結果チャートについて】

＜教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童（生徒）質問番号の対応一覧表＞

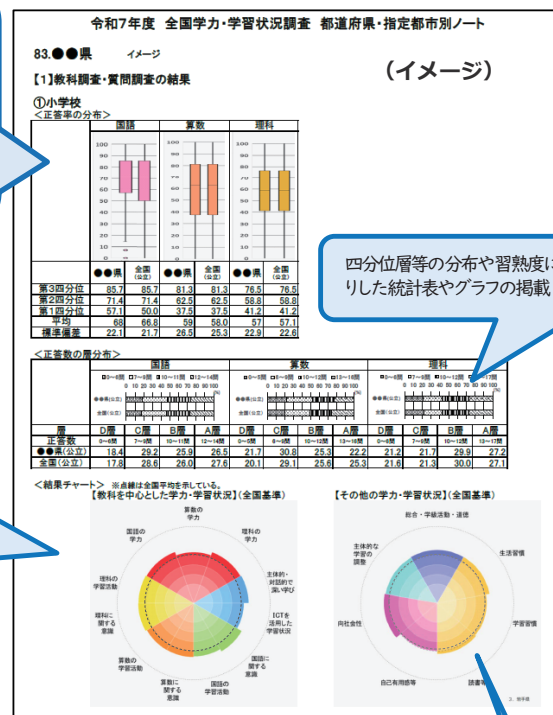
領域番号	領域名	児童（生徒）質問 対応領域・質問番号
1	国語の学力	
2	算数（数学）の学力	
3	理科の学力	
4	主体的・対話的で深い学び	(31)～(35) (37) (39)
5	ICTを活用した学習状況	(28) (29)
6	国語に関する意識	(44) (45) (47)
7	国語の学習活動	(46) (48)～(51)
8	算数（数学）に関する意識	(52) (53) (55) (56)
9	算数（数学）の学習活動	(54) (57)～(59)
10	理科に関する意識	(60) (61) (63)～(65) (60) (61) (63)～(65).....小学校 (60) (61) (63)～(65).....中学校
11	理科の学習活動	(62) (66)～(70) (62) (66)～(70).....小学校 (62) (66)～(70).....中学校

※領域番号1～3については、各教科の全国平均正答率(中学校の領域番号3については全国平均IRTスコア)を基準として比較したものである。
※領域番号4～11については、「小学校児童(中学校生徒)質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

＜その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童（生徒）質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	児童（生徒）質問 対応領域・質問番号
12	総合・学級活動・道徳	(40)～(43)
13	生活習慣	(1)～(3)
14	学習習慣	(17) (19)
15	読書等	(21)～(24)
16	自己有用感等	(5) (6) (10) (12) (14) (15)
17	向社会性	(8) (9) (11) (27)
18	主体的な学習の調整	(16) (36)

※領域番号12～18については、「小学校児童(中学校生徒)質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。



【2】全体的特徴

- ・全教科、全国的なばらつき傾向と大きな差は見られなかった。
- ・D層の割合、バンドIの割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・●●●教科・●●●教科について、全国の結果と比較して、D層の割合、バンドIの割合が多い結果となっている。他の教科について、D層の割合、バンドIの割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校(中学校)においては、「●●●」や「●●●」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「●●●」や「●●●」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

各領域のブロックの面積が広いほど肯定的回答が多く、狭いほど否定的回答が多い。点線は、全国平均を示している。具体的数値は、実施概況(全国)を参照。

【ノート記載例】

(分布・層分布関係)

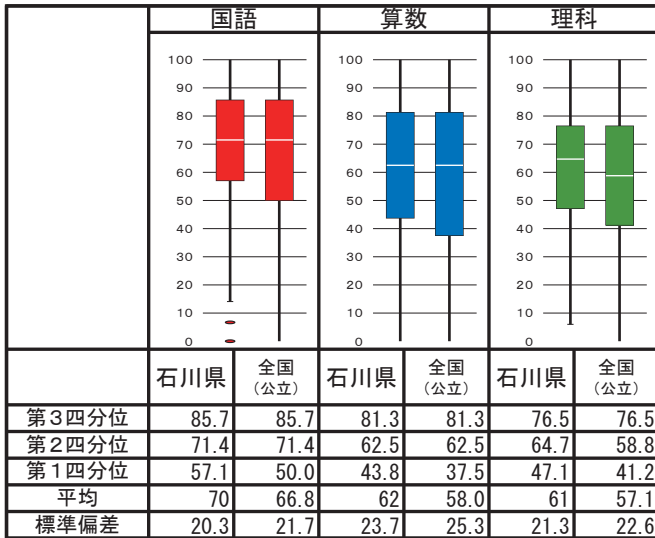
- ・D層の割合、バンドIの割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
→通常の記事。
- ・●●●教科・●●●教科について、全国の結果と比較して、D層の割合、バンドIの割合が多い結果となっている。他の教科について、D層の割合、バンドIの割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
→全国(公立)のD層の割合の差が10%以上、バンドIの割合の差が2倍・1/2以上開いた場合に記載。

(質問調査関係)

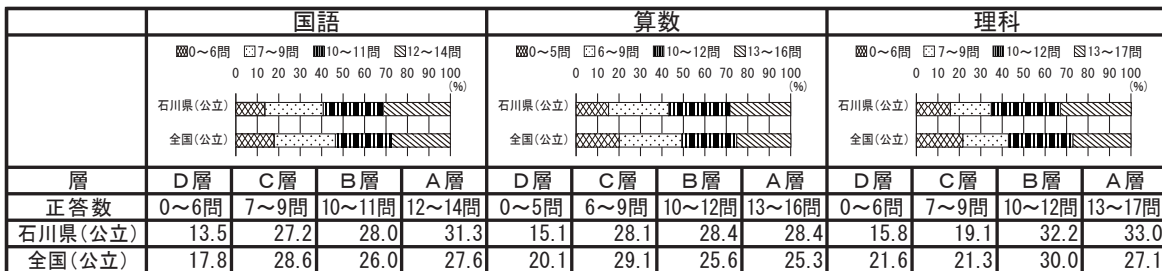
- ・小学校(中学校)においては、「●●●」や「●●●」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「●●●」や「●●●」領域のスコアについて、低い結果が出ている。
→各県内で相対的にスコアが高い領域を2つ記載。
→全国平均と比較してスコアの差が0.5以上開いた場合に、【全国と比較しても高い・低い】という記載。

① 小学校

・正答率の分布

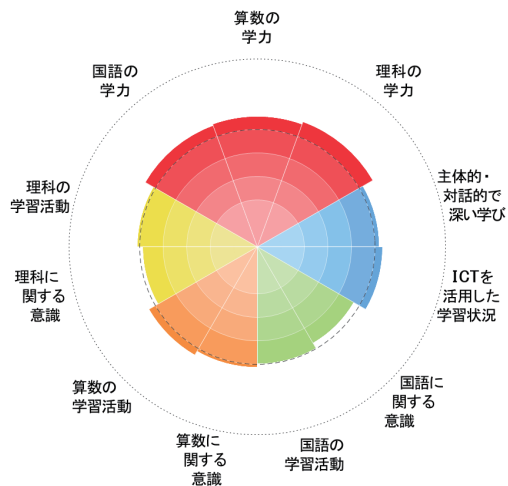


・正答数の層分布

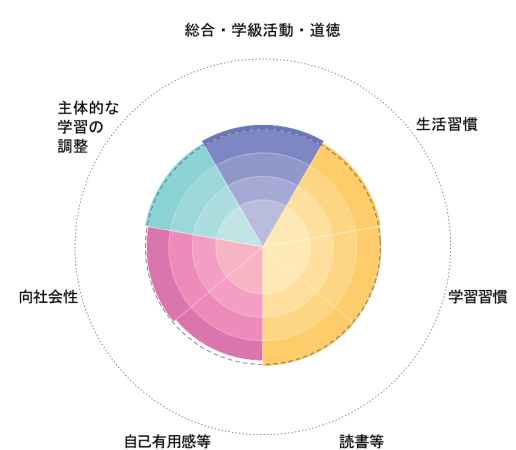


・結果チャート（点線は全国平均を示している。）

【教科を中心とした学力・学習状況】(全国基準)



【その他の学力・学習状況】(全国基準)

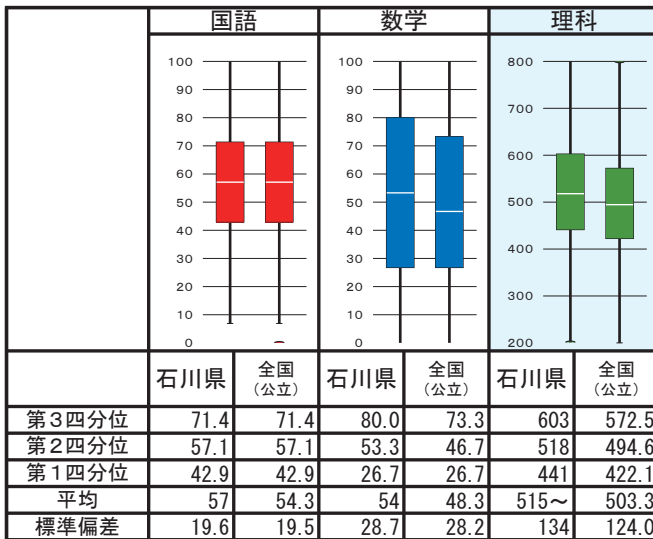


・全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・D層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・「ICTを活用した学習状況」や「算数の学習活動」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「国語に関する意識」や「自己有用感等」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

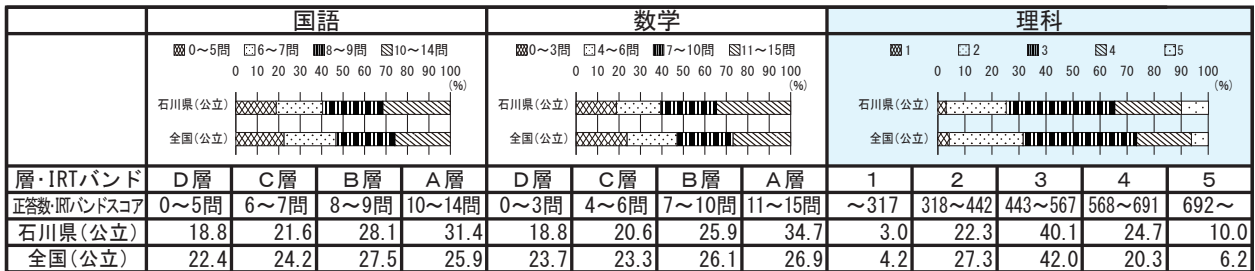
② 中学校

・ 正答率の分布



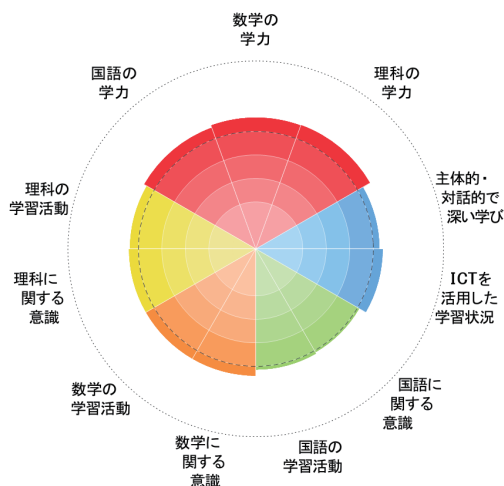
※中学校理科は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

・ 正答数・IRTバンドの層分布

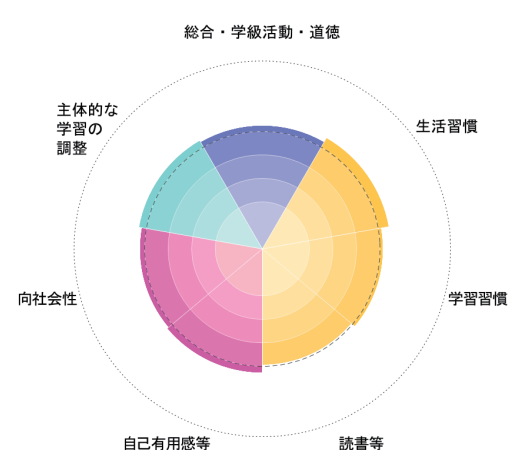


・ 結果チャート（点線は全国平均を示している。）

【教科を中心とした学力・学習状況】(全国基準)



【その他の学力・学習状況】(全国基準)



・ 全体の特徴

- ・ 全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・ D層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・ 「ICTを活用した学習状況」や「生活習慣」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「読書等」や「学習習慣」領域のスコアについて、低い結果が出ている。（なお、「学習習慣」は、全国平均より高い。）

2 教科に関する調査の結果

本県の平均正答率は、これまでの調査と同様に、小中学校の国語、算数・数学、理科ともに全国より高い。

学年	項目	県・国	国語	算数・数学	理科
小学校 第6学年	問題数		14	16	17
	平均正答率 (%)	本県	70	62	61
		全国	66.8	58.0	57.1
中学校 第3学年	問題数		14	15	(※1)
	平均正答率 (%) ・ 平均IRT スコア	本県	57	54	530 (※2)
		全国	54.3	48.3	503 (※2)

※1 問題は、公開問題として全日程に共通する問題6問と実施日により異なる問題4問、非公開問題として生徒ごとに異なる問題16問の計26問で構成。

※2 結果は、IRT(項目反応理論)に基づき算出したスコアで表記。

IRT(Item Response Theory: 項目反応理論)

…出題された問題の正答・誤答を、難易度や特性と区別して分析し、学力スコアを推定する理論。

異なる問題を解いても、同一基準でスコア算出が可能。中学校理科はCBTで実施し、IRT(項目反応理論)に基づき算出したスコアにより、結果を表示している。

《参考》

[令和6年度の結果]

学年	県・国	国語	算数
小学校 第6学年	本県	72	67
	全国	67.7	63.4

学年	県・国	国語	数学
中学校 第3学年	本県	62	57
	全国	58.1	52.5

[令和5年度の結果]

学年	県・国	国語	算数
小学校 第6学年	本県	72	67
	全国	67.2	62.5

学年	県・国	国語	数学	英語
中学校 第3学年	本県	73	56	49
	全国	69.8	51.0	45.6

[令和4年度の結果]

学年	県・国	国語	算数	理科
小学校 第6学年	本県	70	69	70
	全国	65.6	63.2	63.3

学年	県・国	国語	数学	理科
中学校 第3学年	本県	73	58	55
	全国	69.0	51.4	49.3

(1) 各教科の状況

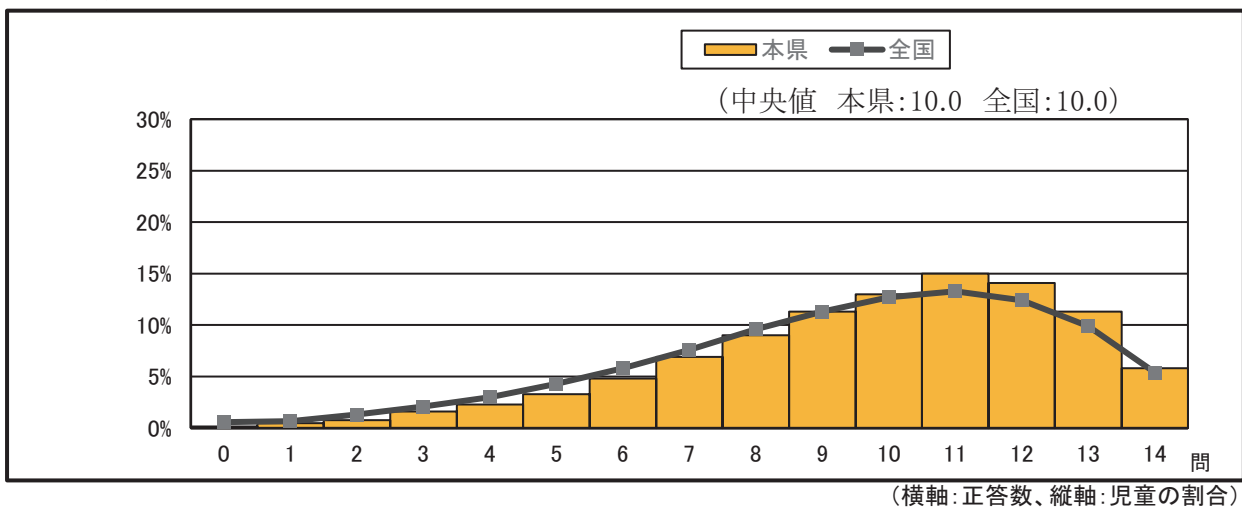
《小学校第6学年 国語》

国語

- ☆ 平均正答率は全国平均をやや上回り、基準に到達している。
- ☆ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えることや、図表などを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することはできている。
- ☆ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることや、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題がある。

	平均正答数	平均正答率	標準偏差
本県	9.8 / 14 問	70 %	2.8
全国	9.4 / 14 問	66.8 %	3.0

【正答数分布グラフ】



【正答率の高い問題】

問題番号	問題の概要	本県	全国
1	2四ア 【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す (このみ)	85.3	81.6
2	3二(1) 【木村さんのメモ】の空欄アに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	84.5	81.6
3	2二 山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	83.2	81.8

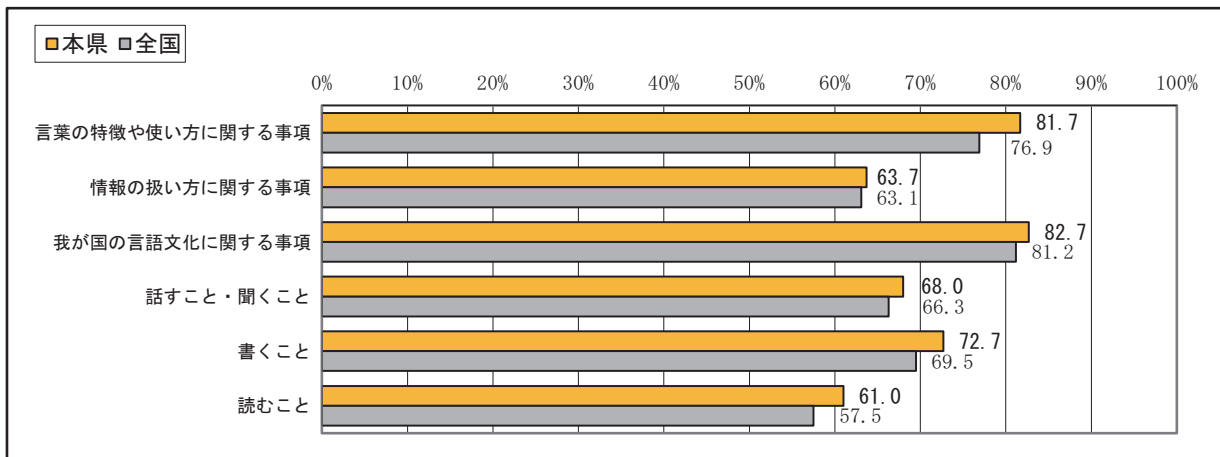
【正答率の低い問題】

問題番号	問題の概要	本県	全国
1	3三(1) 【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	41.6	40.8
2	3二(2) 【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	52.9	51.3
3	1一 【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	55.7	53.3

【到達状況の傾向】

◎:良好である ○:概ね良好である ◇:基準に到達している ▼:十分とはいえない ▼:不十分である

【領域等別の平均正答率】



【知識及び技能】

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

- : 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと[2四ア、イ]

【情報の扱い方に関する事項】

- ▽ : 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと[1二]

【我が国の言語文化に関する事項】

- : 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと[3一]

【思考力、判断力、表現力等】

【話すこと・聞くこと】

- ◇ : 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えること[1三(1)]
- ▼ : 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること[1一]

【書くこと】

- : 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること[2二]
- ▽ : 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること[2一]

【読むこと】

- ▼ : 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること[3二(2)]
- ▼ : 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること[3三(1)]

[]内:問題番号

【各問題の正答率等】

国語

■ : 正答率が全国より高い
□ : 正答率が全国より低い

問題番号	問題の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			本県		全国	
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
		言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと							
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する				○			○			55.7	0.1	53.3	0.5
1二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する		○					○			63.7	0.2	63.1	0.5
1三(1)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する				○			○			74.6	0.2	71.8	0.6
1三(2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する				○			○			73.8	0.2	73.7	0.6
2一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する					○		○			68.2	0.5	65.5	0.8
2二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する					○		○			83.2	0.4	81.8	0.8
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く					○		○			66.8	3.6	61.3	5.0

【各問題の正答率等】

国語

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

問題番号	問題の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			本県		全国	
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
		言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと							
2四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す (このみ)	○						○			85.3	4.1	81.6	7.2
2四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す (あつい日)	○						○			78.2	2.0	72.1	4.3
3一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する			○				○			82.7	0.5	81.2	1.3
3二(1)	【木村さんのメモ】の空欄アに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く							○	○		84.5	1.6	81.6	2.9
3二(2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する							○	○		52.9	1.0	51.3	2.4
3三(1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する							○	○		41.6	1.3	40.8	3.4
3三(2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く							○	○		65.0	10.8	56.3	16.2

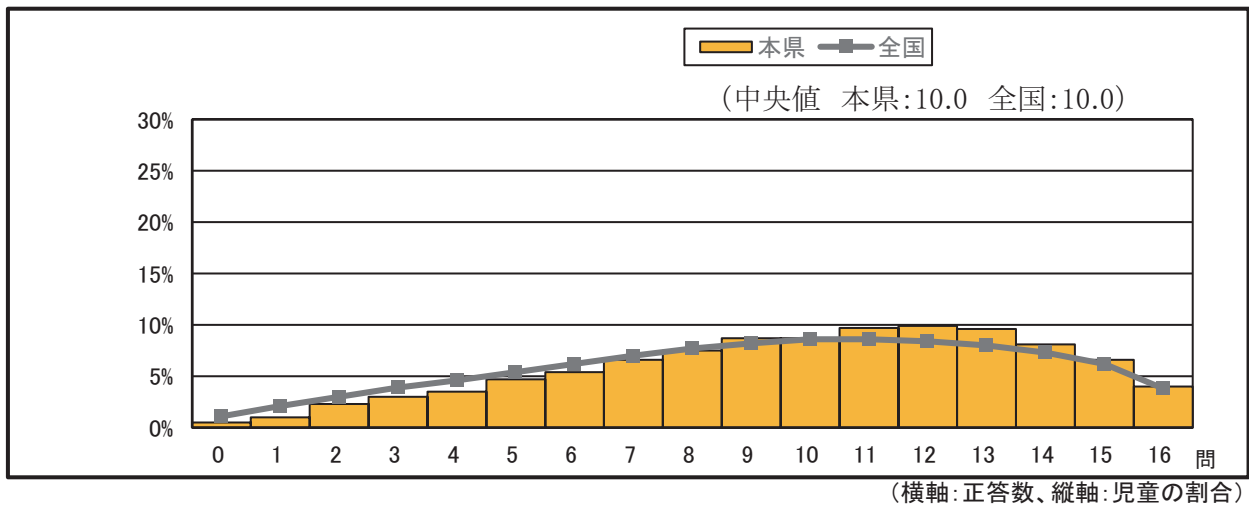
《小学校第6学年 算数》

算数

- ☆ 平均正答率は全国平均をやや上回るが、十分とはいえない。
- ☆ 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることや、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことはできている。
- ☆ 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、その幾つ分かを数や言葉を用いて記述することや、基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述することに課題がある。

	平均正答数	平均正答率	標準偏差
本県	9.8 / 16 問	62 %	3.8
全国	9.3 / 16 問	58.0 %	4.0

【正答数分布グラフ】



【正答率の高い問題】

問題番号	問題の概要	本県	全国
1	3(4) $1/2 + 1/3$ を計算する	86.3	81.3
2	4(1) 新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	84.4	82.8
3	1(1) 2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の全国のブロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	81.5	78.7

【正答率の低い問題】

問題番号	問題の概要	本県	全国
1	3(2) $3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	27.1	23.0
2	2(4) 五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	36.6	37.0
3	1(2) 都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	38.2	31.0

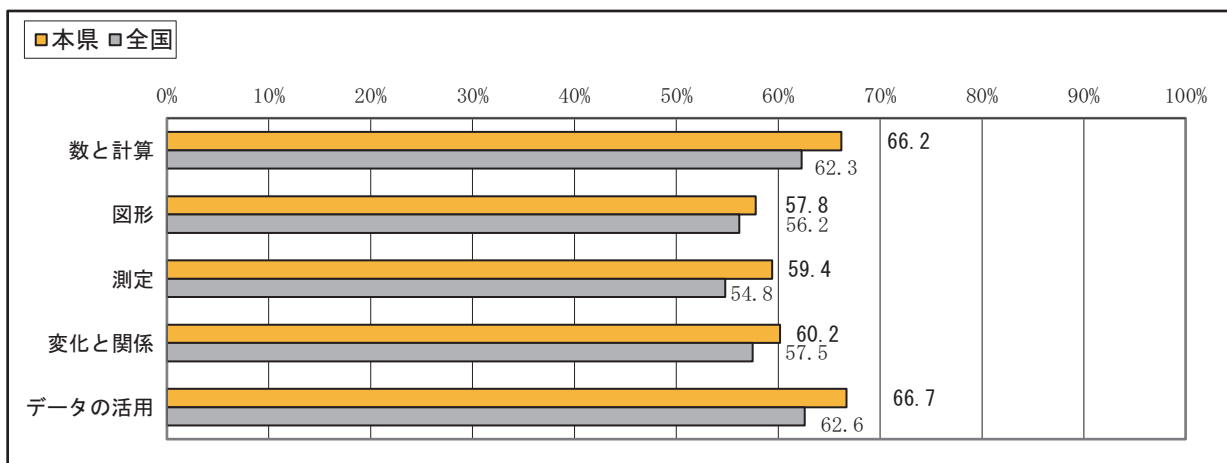
【本県の平均正答率が全国の平均正答率より低い問題】

	問題番号	問題の概要	本県	全国	差
1	2(2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	49.2	50.2	-1.0
2	2(4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	36.6	37.0	-0.4

【到達状況の傾向】

◎:良好である ○:概ね良好である ◇:基準に到達している ▽:十分とはいえない ▼:不十分である

【領域等別の平均正答率】



【数と計算】

- : 異分母の分数の加法の計算をすること〔3(4)〕
- ◇ : 小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えること〔3(1)〕

【図形】

- ▼ : 台形の意味や性質について理解していること〔2(2)〕
- ▼ : 基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述すること〔2(4)〕

【測定】

- ▽ : はかりの目盛りを読むこと〔4(3)〕

【変化と関係】

- : 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと〔4(1)〕
- ▼ : 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すこと〔4(4)〕

【データの活用】

- : 棒グラフから、項目間の関係を読み取ること〔1(1)〕
- ◇ : 簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶこと〔1(3)〕

[]内:問題番号

【各問題の正答率等】

算数

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			本県		全国	
		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1(1)	2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の全国のブロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	○				○	○		81.5	0.1	78.7	0.4	
1(2)	都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く					○	○		38.2	0.4	31.0	0.9	
1(3)	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ					○	○		76.5	2.6	71.6	3.5	
1(4)	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロッコリー4個の重さを求める式と答えを書く	○					○		76.9	1.6	74.5	2.6	
2(1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ		○				○		64.0	0.7	58.3	1.2	
2(2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ		○				○		49.2	0.4	50.2	0.7	
2(3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのぼした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ		○				○		81.5	0.5	79.3	1.0	
2(4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く		○				○		36.6	1.7	37.0	2.7	

【各問題の正答率等】

算数

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			本県		全国	
		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
3(1)	0.4 + 0.05 について、整数の加法で考えるとときの共通する単位を書く	○					○			78.6	1.5	74.1	2.8
3(2)	$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	○						○		27.1	11.9	23.0	15.7
3(3)	数直線上に示された数を分数で書く	○					○			41.7	4.7	35.0	7.8
3(4)	$\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ を計算する	○					○			86.3	2.4	81.3	4.1
4(1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	○			○	○		○		84.4	1.1	82.8	2.6
4(2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	○		○	○	○		○		52.8	1.9	48.7	3.4
4(3)	はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む			○			○			66.0	2.3	60.9	4.2
4(4)	10% 増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ				○			○		43.4	2.1	40.9	4.1

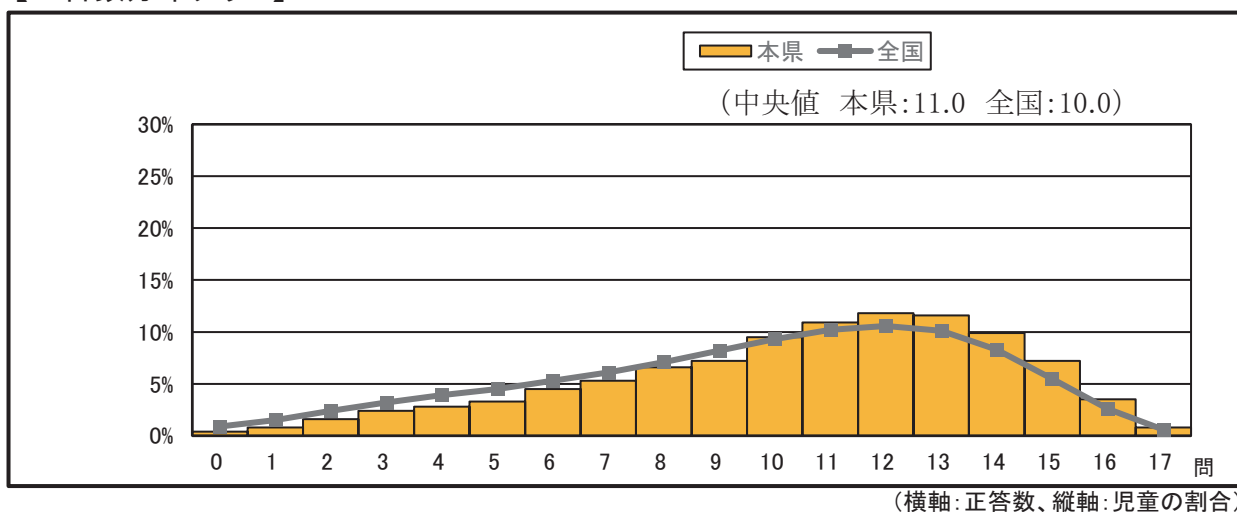
《小学校第6学年 理科》

理科

- ☆ 平均正答率は全国平均をやや上回るが、十分とはいえない。
- ☆ 変える条件と変えない条件を整理しながら、量を正しく設定した解決の方法を発想し、表現することはできている。
- ☆ 学習した知識を身の回りで見られる事物・現象と関係付けたり、習得した知識を整理したりして、物質の性質について理解することに課題がある。

	平均正答数	平均正答率	標準偏差
本県	10.4 / 17 問	61 %	3.6
全国	9.7 / 17 問	57.1 %	3.8

【正答数分布グラフ】



【正答率の高い問題】

問題番号	問題の概要	本県	全国
1 1(1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	83.6	79.5
2 2(3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	80.8	78.0
3 3(1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	80.8	70.7

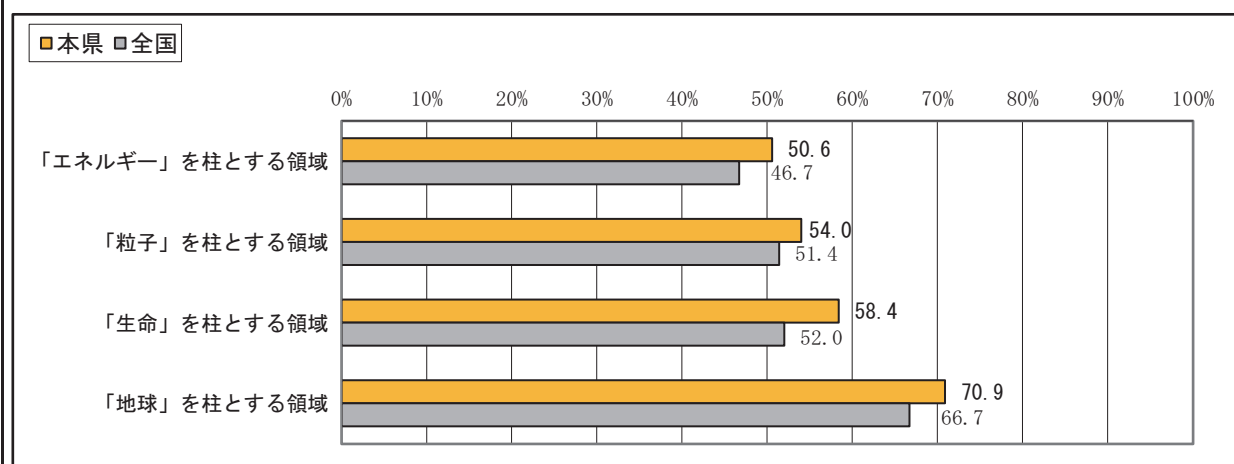
【正答率の低い問題】

問題番号	問題の概要	本県	全国
1 2(1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	14.1	10.6
2 3(4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く	32.8	29.9
3 2(2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	45.0	42.9

【到達状況の傾向】

◎:良好である ○:概ね良好である ◇:基準に到達している ▽:十分とはいえない ▼:不十分である

【領域等別の平均正答率】



【「エネルギー」を柱とする領域】

- : 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることを理解すること[2(3)]
- ▼ : 電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現すること[2(2)]
- ▼ : 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることを理解すること[2(1)]

【「粒子」を柱とする領域】

- ▽ : 水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解すること[4(2)イ、ウ]
- ▼ : 水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現すること[4(1)]

【「生命」を柱とする領域】

- : ヘチマの花のつくりや受粉について理解すること[3(1)]
- ▼ : レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること[3(4)]

【「地球」を柱とする領域】

- : 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現すること[1(1)]
- ▽ : 氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解すること[4(3)キ]

[]内:問題番号

【各問題の正答率等】

理科

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			本県		全国	
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1(1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く				○		○		83.6	1.2	79.5	2.5
1(2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く				○		○		71.7	5.2	60.5	8.5
1(3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ				○		○		80.7	0.5	77.8	0.9
2(1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	○	○			○			14.1	0.3	10.6	0.6
2(2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	○					○		45.0	0.4	42.9	0.6
2(3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	○				○			80.8	1.6	78.0	2.7
2(4)	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	○				○			62.6	0.4	55.1	0.8
3(1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く			○		○			80.8	0.7	70.7	1.5

【各問題の正答率等】

理科

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			本県		全国	
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
3(2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ			○		○			50.6	0.4	45.6	0.8
3(3)	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ			○		○			69.4	0.6	62.0	1.7
3(4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く			○		○			32.8	7.2	29.9	11.4
4(1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く		○			○			53.3	3.8	50.6	6.1
4(2)イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ		○		○	○			68.1	0.7	64.2	1.3
4(2)エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ		○		○	○			60.7	0.8	57.5	1.5
4(3)カ	海にある氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ		○			○			60.6	1.3	59.8	2.3
4(3)キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ				○	○			60.9	1.3	60.9	2.4
4(3)ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ		○			○			67.4	1.3	65.6	2.5

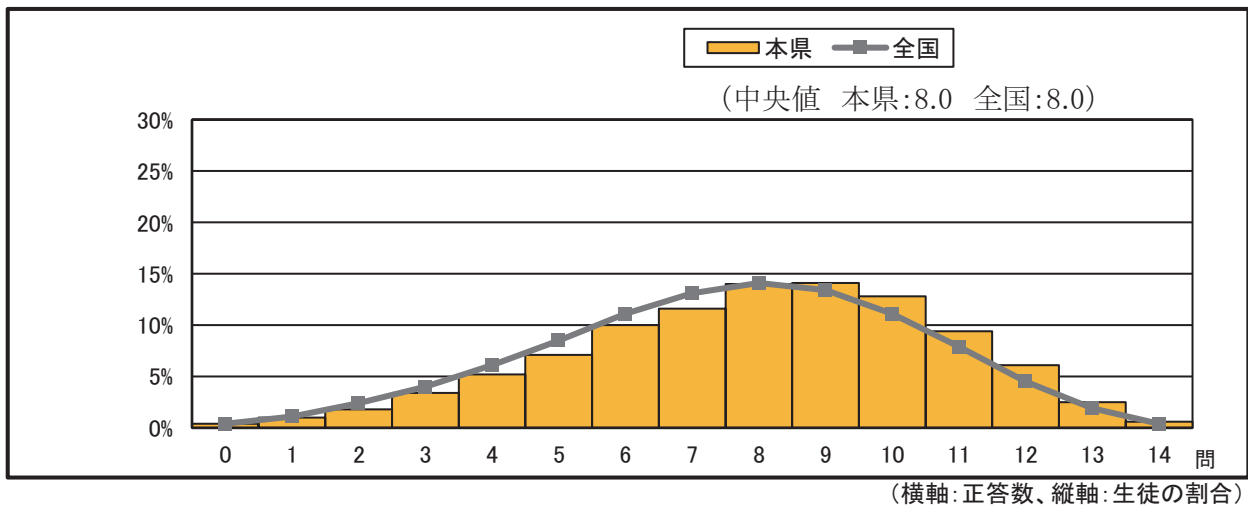
《中学校第3学年 国語》

国語

- ☆ 平均正答率は全国平均をやや上回るが、不十分である。
- ☆ 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることや、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることはできている。
- ☆ 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることや、資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。

	平均正答数	平均正答率	標準偏差
本県	8.0 / 14 問	57 %	2.7
全国	7.6 / 14 問	54.3 %	2.7

【正答数分布グラフ】



【正答率の高い問題】

問題番号	問題の概要	本県	全国
1	3二 「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	90.3	89.9
2	1二 ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	83.9	82.5
3	3一 物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	82.6	80.0

【正答率の低い問題】

問題番号	問題の概要	本県	全国
1	3四 「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く	18.0	17.1
2	2四 発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	30.6	23.2
3	4二 手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見つけて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	33.4	30.1

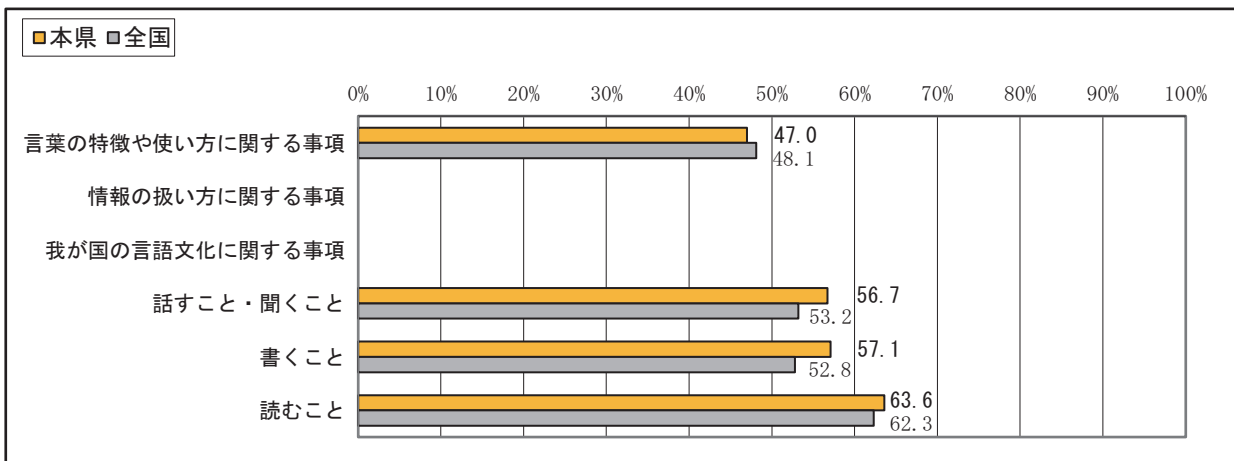
【本県の平均正答率が全国の平均正答率より低い問題】

	問題番号	問題の概要	本県	全国	差
1	3三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	57.9	61.0	-3.1

【到達状況の傾向】

◎:良好である ○:概ね良好である ◇:基準に到達している ▽:十分とはいえない ▼:不十分である

【領域等別の平均正答率】



【知識及び技能】

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

- ▼ : 文脈に即して漢字を正しく使うこと〔1一〕
- ▼ : 事象や行為を表す語彙について理解すること〔3三〕

【思考力、判断力、表現力等】

【話すこと・聞くこと】

- ◇ : 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること〔2二〕
- ▼ : 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること〔2四〕

【書くこと】

- : 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること〔1二〕
- ▼ : 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと〔1四〕

【読むこと】

- ◎ : 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること〔3二〕
- ▼ : 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること〔3四〕

[]内:問題番号

【各問題の正答率等】

国語

■: 正答率が全国より高い

□: 正答率が全国より低い

問題番号	問題の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			本県		全国	
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
		言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと							
1一	変換した漢字として適切なものを選択する(かいしん)	○						○			36.1	0.2	35.2	0.2
1二	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する					○		○			83.9	0.2	82.5	0.2
1三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する					○		○			69.2	0.4	63.3	0.5
1四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く					○		○			39.0	2.7	31.0	1.6
2一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する					○		○			39.4	0.3	38.1	0.3
2二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する					○		○			78.8	0.3	77.9	0.3
2三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する					○		○			77.9	0.6	73.4	0.6

【各問題の正答率等】

国語

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

問題番号	問題の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			本県		全国	
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
		言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと							
2四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く				○				○		30.6	5.5	23.2	4.0
3一	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する								○		82.6	0.5	80.0	0.5
3二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く								○		90.3	3.9	89.9	4.0
3三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	○							○		57.9	0.8	61.0	0.8
3四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く								○		18.0	30.3	17.1	28.1
4一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する								○		60.1	29.4	57.3	33.5
4二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く								○		33.4	18.8	30.1	19.1

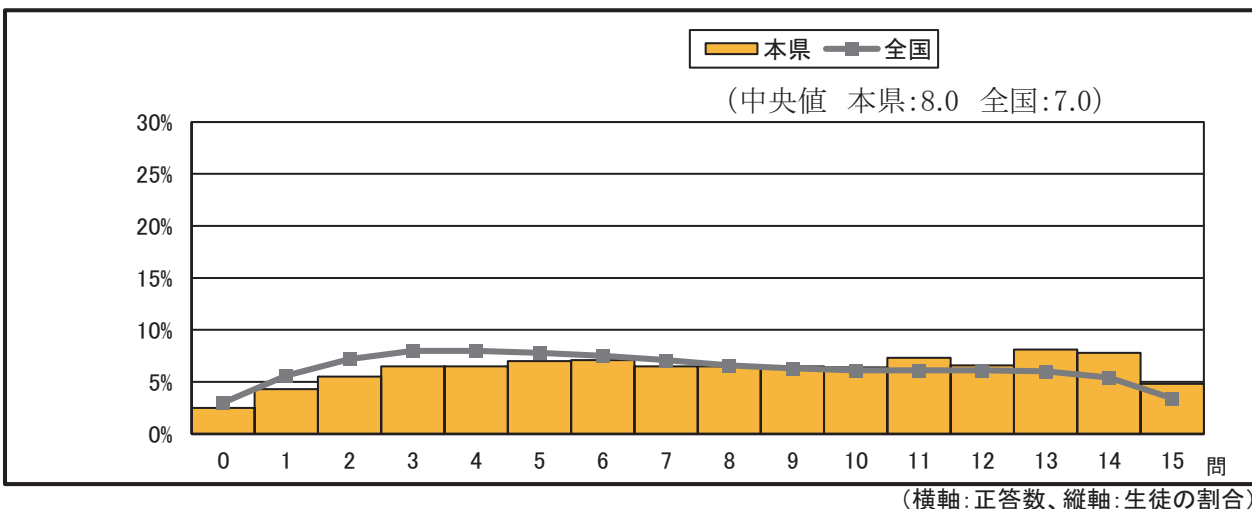
《中学校第3学年 数学》

数学

- ☆ 平均正答率は全国平均を上回るが、不十分である。
- ☆ 必ず起こる事柄の確率について理解することや、事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることはできている。
- ☆ 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することや、素数の意味を理解することに課題がある。

	平均正答数	平均正答率	標準偏差
本県	8.1 / 15 問	54 %	4.3
全国	7.2 / 15 問	48.3 %	4.2

【正答数分布グラフ】



【正答率の高い問題】

問題番号	問題の概要	本県	全国
1	7(1) Aの手元のカードが3枚とも「ゲー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	80.2	77.4
2	8(1) A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅間の走行距離が分かるかを選ぶ	75.0	71.9
3	6(1) 連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	68.0	62.8

【正答率の低い問題】

問題番号	問題の概要	本県	全国
1	6(2) $3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する	31.4	25.7
2	1 1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	34.7	31.8
3	9(3) 平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上に $BE=DF$ となる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	38.0	33.2

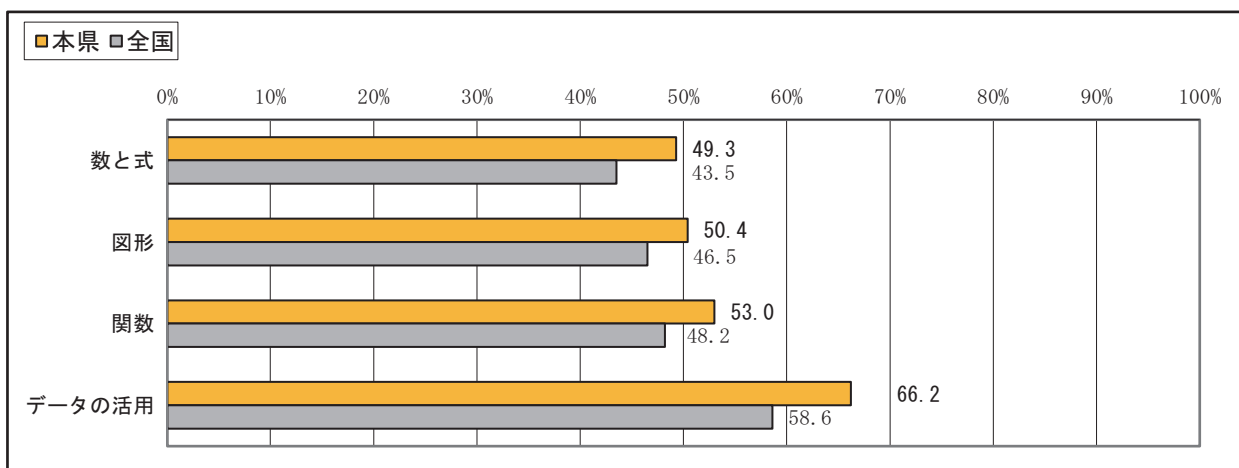
【本県の平均正答率が全国の平均正答率より低い問題】

問題番号	問題の概要	本県	全国	差
1 3	△ABCにおいて、∠Aの大きさが50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	58.0	58.1	-0.1

【到達状況の傾向】

◎:良好である ○:概ね良好である ◇:基準に到達している ▽:十分とはいえない ▼:不十分である

【領域等別の平均正答率】



【数と式】

- ▼ : 素数の意味を理解すること〔1〕
- ▼ : 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明すること〔6(2)〕

【図形】

- ▽ : 証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角の関係を見いだすこと〔9(1)〕
- ▼ : ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること〔9(3)〕

【関数】

- ◇ : 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ること〔8(1)〕
- ▼ : 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること〔8(2)〕

【データの活用】

- : 必ず起こる事柄の確率について理解すること〔7(1)〕
- ▽ : 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること〔7(2)〕

[]内:問題番号

【各問題の正答率等】

数学

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			本県		全国	
		数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1	1 から 9 までの数の中から素数を全て選ぶ	○				○			34.7	0.6	31.8	0.7
2	果汁 40% の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を、a を用いた式で表す	○				○			59.2	5.7	51.9	7.3
3	△ABC において、∠A の大きさが 50° のときの頂点 A における外角の大きさを求める		○			○			58.0	1.8	58.1	2.0
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、x の増加量が 2 のときの y の増加量を求める			○		○			40.2	7.2	34.7	8.0
5	ある学級の生徒 40 人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20 m 以上 25 m 未満の階級の相対度数を求める				○	○			55.0	6.9	42.5	9.4
6(1)	連続する二つの 3 の倍数の和が 9 の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	○				○			68.0	3.9	62.8	4.6
6(2)	$3n$ と $3n + 3$ の和を $2(3n + 1) + 1$ と表した式から、連続する二つの 3 の倍数の和がどんな数であるかを説明する	○					○		31.4	22.0	25.7	24.9
6(3)	連続する三つの 3 の倍数の和が、9 の倍数になることの説明を完成する	○					○		53.3	18.4	45.2	20.2
7(1)	A の手元のカードが 3 枚とも「ゲー」、B の手元のカードが 3 枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの 1 回目を行うとき、1 回目に A が勝つ確率を書く				○	○			80.2	2.8	77.4	3.2

【各問題の正答率等】

数学

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			本県		全国	
		数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
7(2)	Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する				○				63.4	2.6	55.9	2.2
8(1)	A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅の間での走行距離が分かるかを選ぶ				○				75.0	2.1	71.9	2.3
8(2)	A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する				○				43.7	31.8	38.0	35.0
9(1)	四角形AECFが平行四辺形であることを証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ		○						62.4	1.2	58.5	1.1
9(2)	平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する		○						43.4	7.2	36.3	7.2
9(3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する		○						38.0	28.5	33.2	31.5

《中学校第3学年 理科》

理科

- ☆ 平均IRTスコアは全国平均より高く、IRTスコア分布が全国より右側に位置する。
- ☆ IRTバンドの1・2・3の割合は全国より低く、4・5の割合は全国より高い。

【1】 平均正答数集計値（公開問題(全日程に共通する問題)）

	平均正答数	標準偏差
本県	3.2 / 6 問	1.4
全国	2.9 / 6 問	1.4

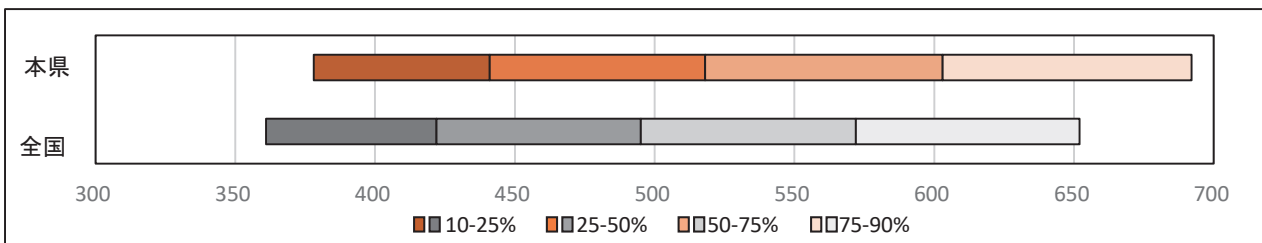
【2】～【9】 平均正答数集計値（公開問題(実施日により異なる問題)）

	【2】、【9】	【5】、【8】	【3】、【6】	【4】、【7】
本県	2.1 / 4 問	2.1 / 4 問	2.4 / 4 問	2.4 / 4 問
全国	2.0 / 4 問	1.9 / 4 問	2.3 / 4 問	2.3 / 4 問

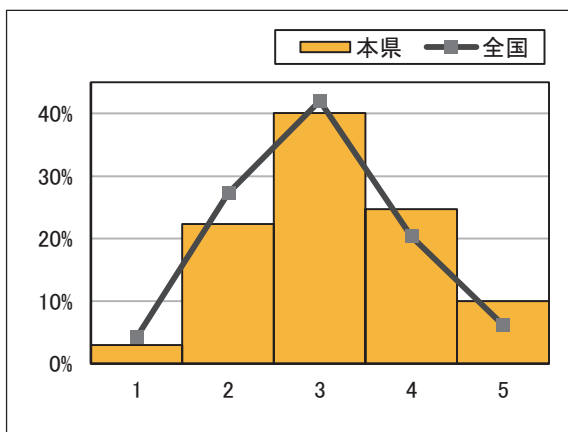
IRTスコア集計値

	平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
本県	530	134.0	378	441	518	603	692
全国	503	124.0	361	422	495	572	652

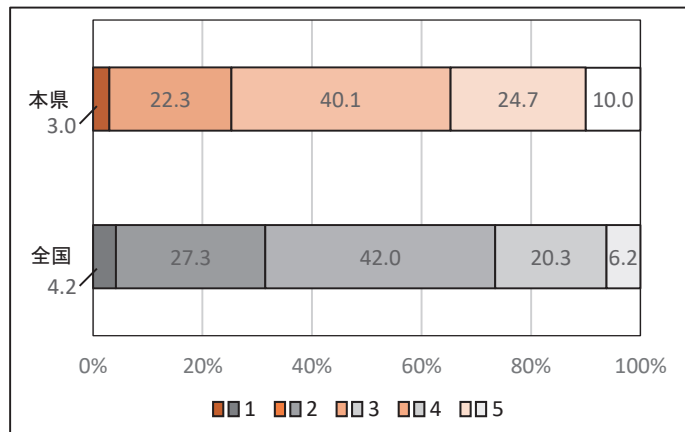
IRTスコア分布グラフ(パーセンタイル値:10%、25%、50%、75%、90%)



IRTバンド分布(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



IRTバンド分布比較



<公開問題に関する結果>

- ☆ 考察の妥当性を高めるために、収集する資料や情報の信頼性に関する知識及び技能を身に付けることができる。
- ☆ 時間的・空間的な見方を働かせて、地層の広がりを検討して表現することに引き続き課題がある。

【正答率の高い問題】

	問題番号	問題の概要	本県	全国	難易度
1	2(2)	「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	96.5	94.6	2
2	5(1)	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	94.7	93.0	1
3	4(2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	90.6	92.8	2

【正答率の低い問題】

	問題番号	問題の概要	本県	全国	難易度
1	8(2)	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	19.5	18.1	5
2	2(1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	21.3	14.0	5
3	7(1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	34.1	34.8	5

【本県の平均正答率が全国の平均正答率より大きく上回っている問題】

	問題番号	問題の概要	本県	全国	差	難易度
1	1(2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	55.9	46.2	9.7	5
2	5(2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	45.1	35.6	9.5	4
3	2(1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	21.3	14.0	7.3	5

【本県の平均正答率が全国の平均正答率より低い問題】

	問題番号	問題の概要	本県	全国	差	難易度
1	4(2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	90.6	92.8	-2.2	2
2	7(1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	34.1	34.8	-0.7	5
3	6(1)	牧野富太郎の「ノジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	65.8	65.9	-0.1	4

【到達状況の傾向】

【「エネルギー」を柱とする領域】

- ◎ : ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能を身に付けること[2(2)]
- ▼ : 【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明すること[2(1)]

【「粒子」を柱とする領域】

- ◎ : 加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能を身に付けること[5(1)]
- ▼ : 化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すこと[5(2)]

【「生命」を柱とする領域】

- ▽ : スケッチに関する知識及び技能を身に付けること[6(1)]
- ▼ : 小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性を見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈すること[7(1)]

【「地球」を柱とする領域】

- ▼ : 大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現すること[8(2)]
- ▼ : 気圧の知識を概念として身に付けること[9(2)]

【各公開問題の正答率等】

理科

■ : 正答率が全国より高い
□ : 正答率が全国より低い

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域			評価の観点			本県		全国		問題の難易度	対象生徒数	
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)		無解答率(%)	石川県(人)
1(1)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	○				○		54.8	0.2	51.9	0.2	5	8,125	864,634
1(2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	○				○		55.9	5.0	46.2	8.0	5	8,125	864,634
1(3)	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する				○	○		37.3	0.5	36.2	0.6	5	8,125	864,634
1(4)	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する			○		○		34.5	0.1	29.7	0.2	5	8,125	864,634
1(5)	塩素の元素記号を記述する	○				○		49.5	6.6	44.9	8.5	4	8,125	864,634
1(6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	○				○		83.7	7.4	79.4	9.9	3	8,125	864,634
2(1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	○				○		21.3	2.0	14.0	1.9	5	2,050	203,127
2(2)	「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	○				○		96.5	0.1	94.6	0.1	2	2,050	203,127
3(1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	○				○		41.2	0.3	34.9	0.2	5	2,109	220,884
3(2)	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する	○				○		88.9	0.1	85.2	0.1	2	2,109	220,884

【各公開問題の正答率等】

理科

■ : 正答率が全国より高い
□ : 正答率が全国より低い

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域			評価の観点			本県		全国		問題の難易度	対象生徒数	
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)		無解答率(%)	石川県(人)
4(1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断し、小さい順に並べる	○				○		55.9	0.2	50.4	0.1	4	2,062	220,314
4(2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	○				○		90.6	0.0	92.8	0.1	2	2,062	220,314
5(1)	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	○				○		94.7	0.0	93.0	0.1	1	1,904	220,309
5(2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	○				○		45.1	4.2	35.6	4.6	4	1,904	220,309
6(1)	牧野富太郎の「ノジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する		○			○		65.8	0.2	65.9	0.2	4	2,109	220,884
6(2)	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する		○			○		46.4	0.1	41.9	0.1	4	2,109	220,884
7(1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する		○			○		34.1	0.1	34.8	0.2	5	2,062	220,314
7(2)	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する	○	○			○		57.3	0.1	51.6	0.2	5	2,062	220,314

【各公開問題の正答率等】

理科

■ : 正答率が全国より高い
□ : 正答率が全国より低い

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域			評価の観点			本県		全国		問題の難易度	対象生徒数	
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)		無解答率(%)	石川県(人)
8(1)	大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する				○			46.8	3.1	42.2	3.2	4	1,904	220,309
8(2)	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようなになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す				○			19.5	1.0	18.1	1.1	5	1,904	220,309
9(1)	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する				○			38.4	0.2	31.8	0.3	5	2,050	203,127
9(2)	クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する				○	○		58.4	0.2	58.1	0.3	4	2,050	203,127

※ 公開問題は、全日程に共通する問題6問と、実施日により異なる問題16問(4問×4日間)の計22問

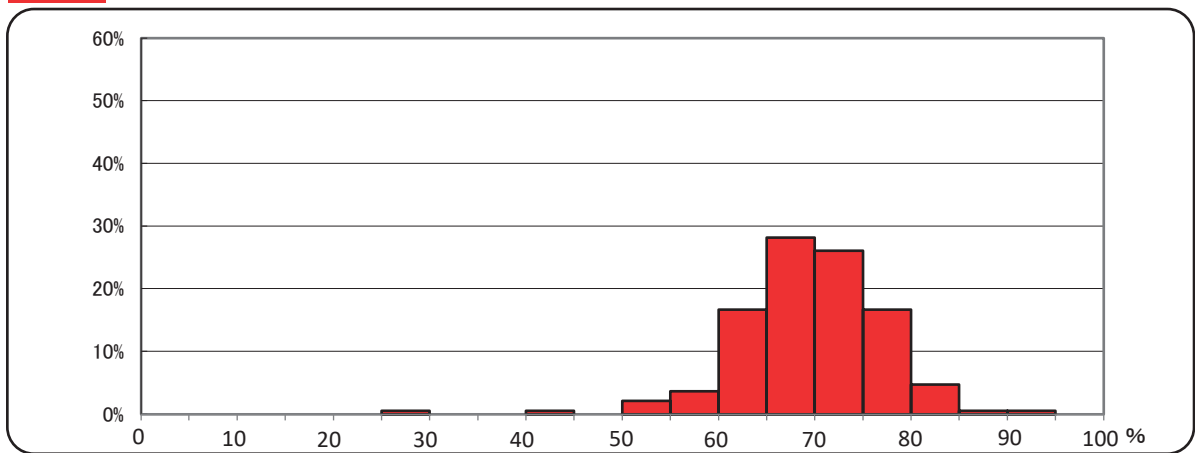
※ 生徒一人あたり、公開問題10問(全日程に共通する問題6問と、実施日により異なる問題4問)と、非公開問題16問の計26問を解答

(2) 学校の分布状況

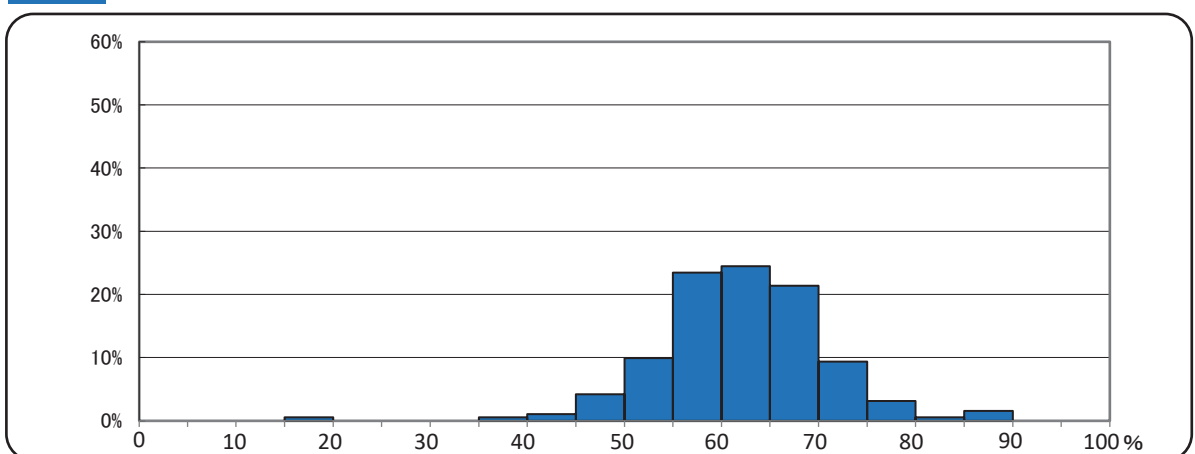
《公立小学校第6学年》

学校数	192 校
-----	-------

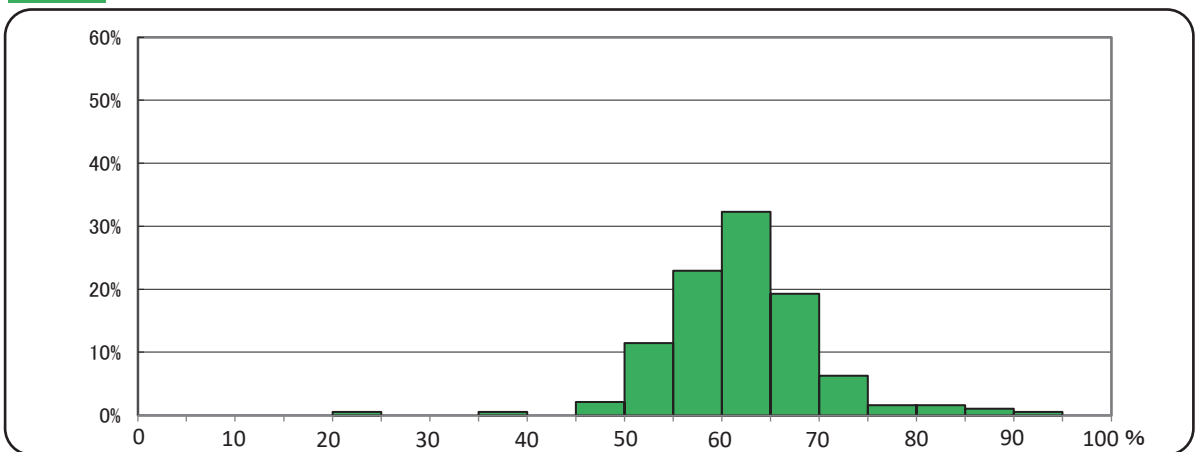
国語



算数



理科

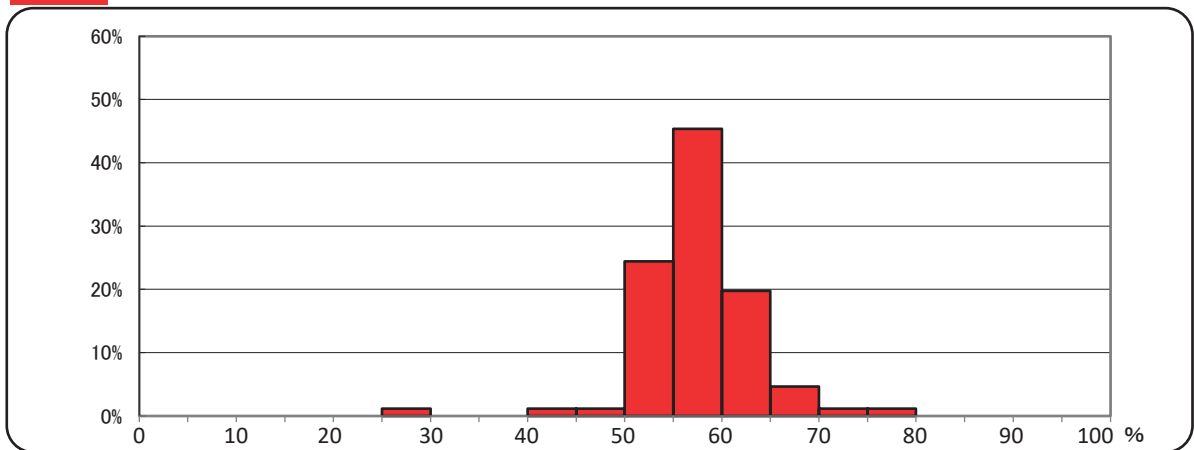


(横軸: 学校の平均正答率 縦軸: 学校数の割合)

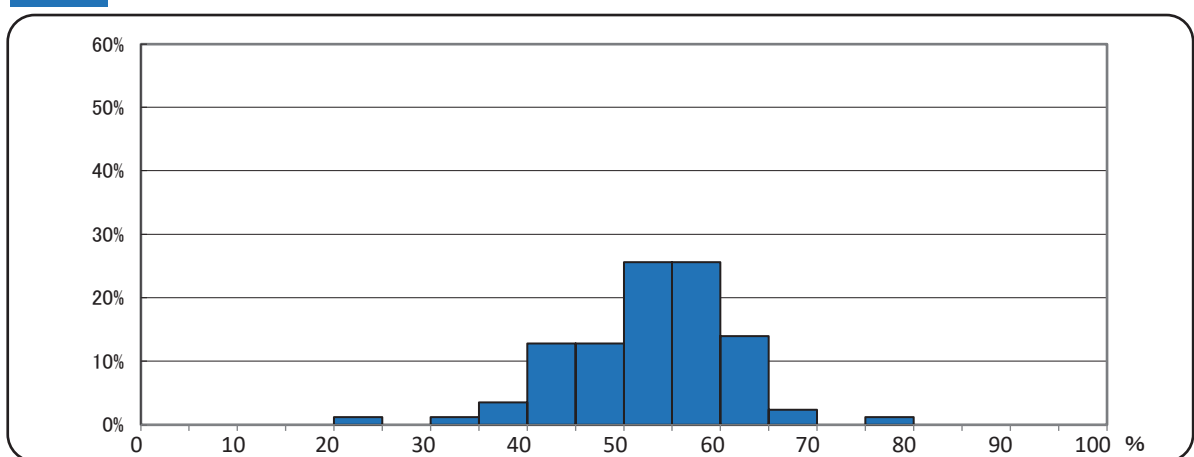
《公立中学校第3学年》

学校数	86 校
-----	------

国語



数学



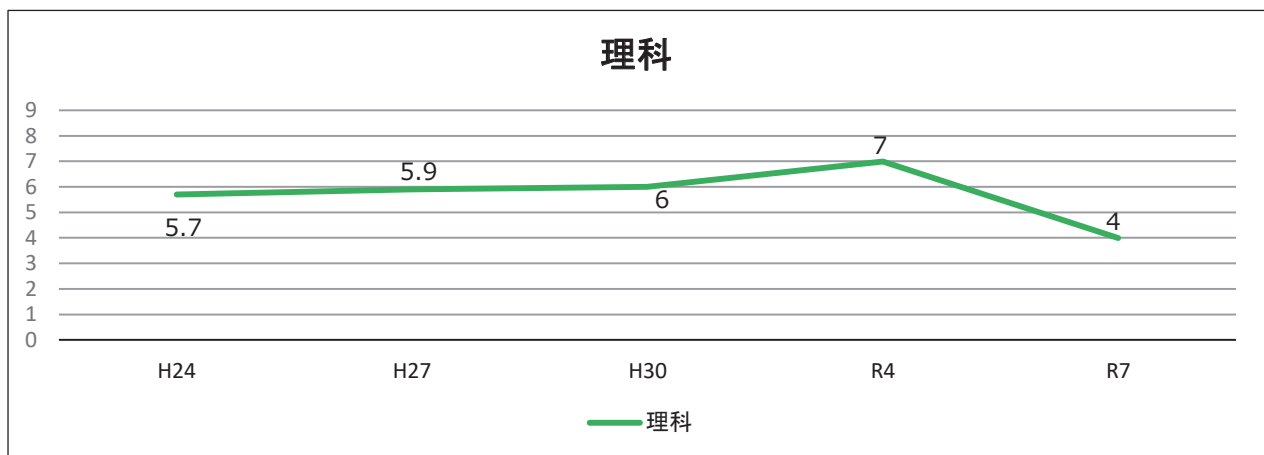
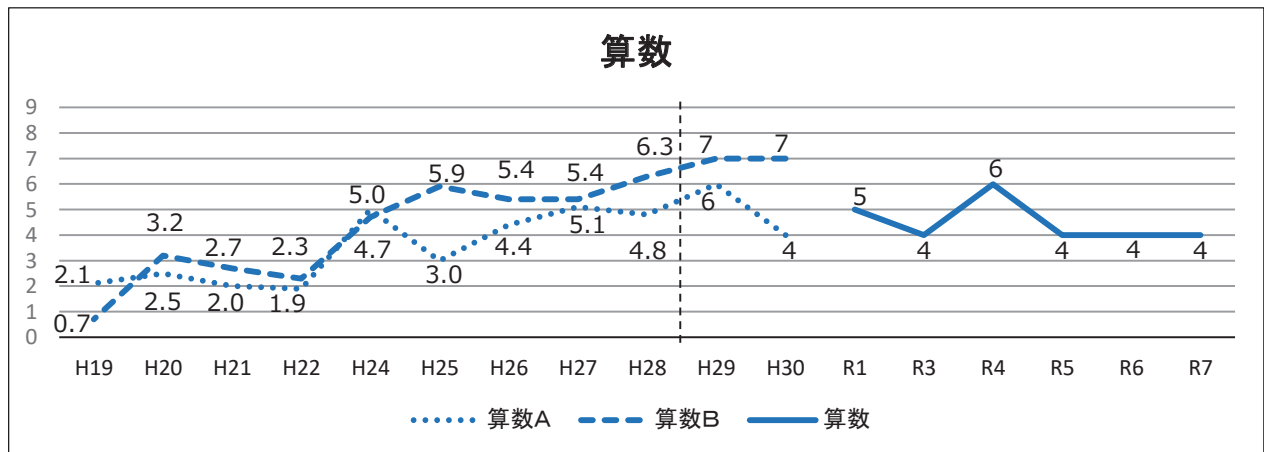
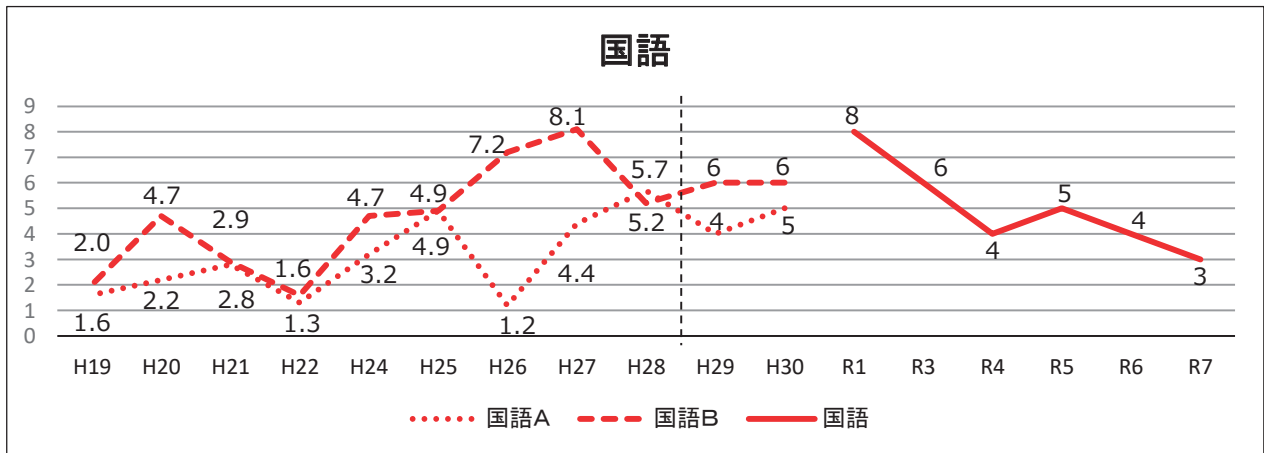
(横軸: 学校の平均正答率 縦軸: 学校数の割合)

理科

※ 令和7年度の中学校理科の結果は、IRTに基づき算出したIRTスコアのため、グラフの記載なし

(3) 平均正答率の全国との差の変動

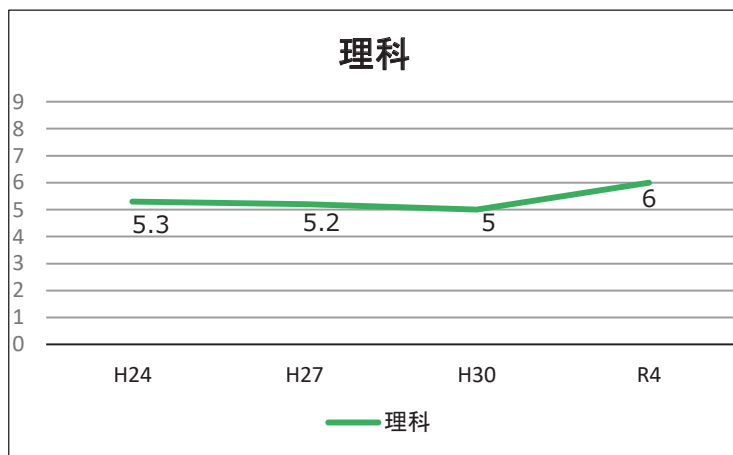
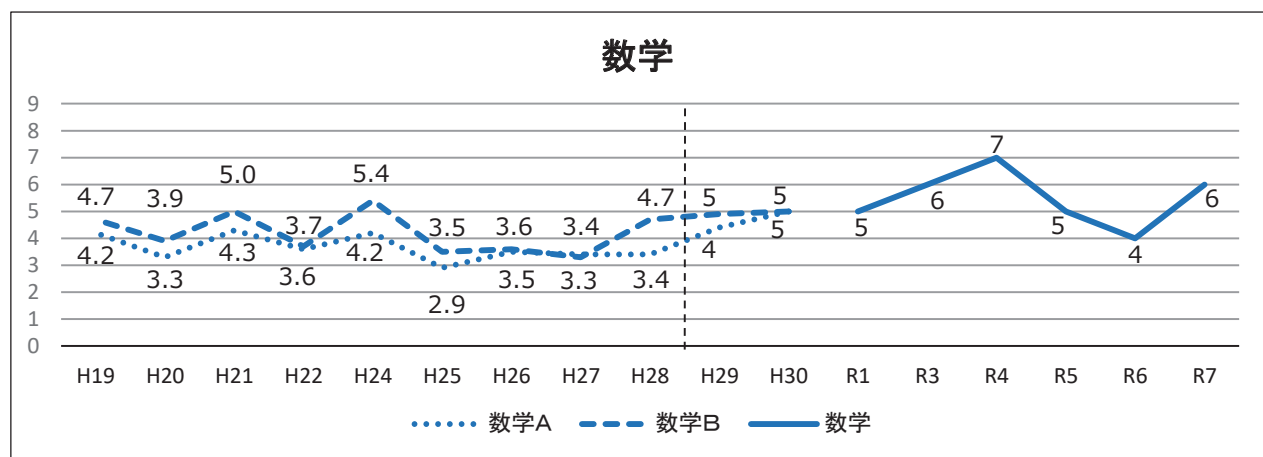
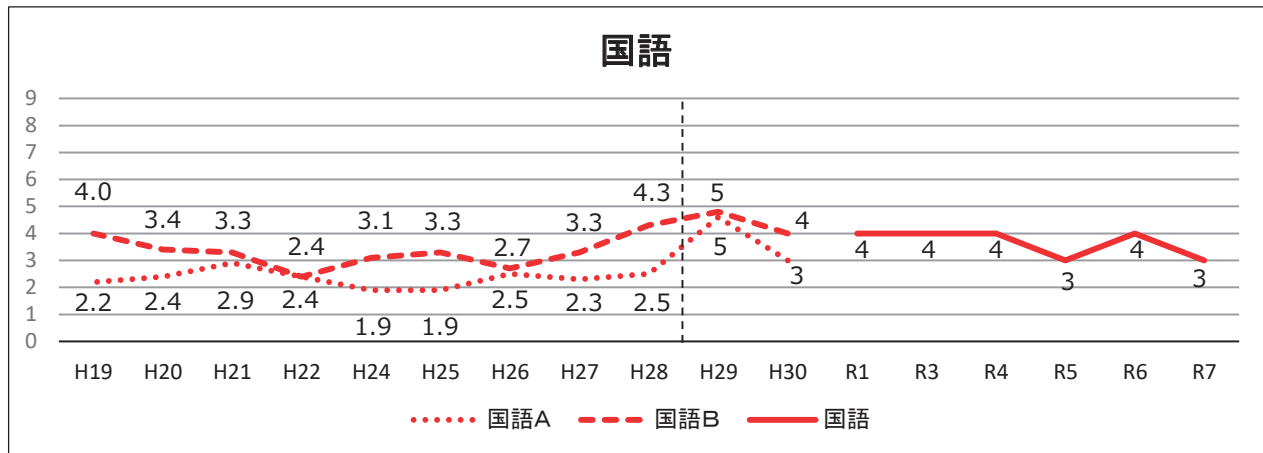
小学校



(横軸:年度 縦軸:ポイント)

- ※ 平成29年度より、文部科学省は、県の平均正答率を整数値で公表している。そのため、国と県のそれぞれの平均正答率を整数値として算出し、その差を示したものである。
- ※ 令和元年度より、従来のA問題(知識)とB問題(活用)という区分を見直した知識・活用を一体的に問う調査問題となる。
- ※ 悉皆調査(H19~H21、H26~)、抽出調査(H22、H24)、文部科学省による調査は中止(H23、R2)

中学校



※ 令和7年度の中学校理科の結果は、IRTに基づき算出したIRTスコアのためグラフの記載なし

(横軸:年度 縦軸:ポイント)

- ※ 平成29年度より、文部科学省は、県の平均正答率を整数値で公表している。そのため、国、県、それぞれの平均正答率を整数値として算出し、その差を示したものである。
- ※ 令和元年度より、従来のA問題(知識)とB問題(活用)という区分を見直した知識・活用を一体的に問う調査問題となる。
- ※ 悉皆調査(H19~H21、H26~)、抽出調査(H22、H24)、文部科学省による調査は中止(H23、R2)

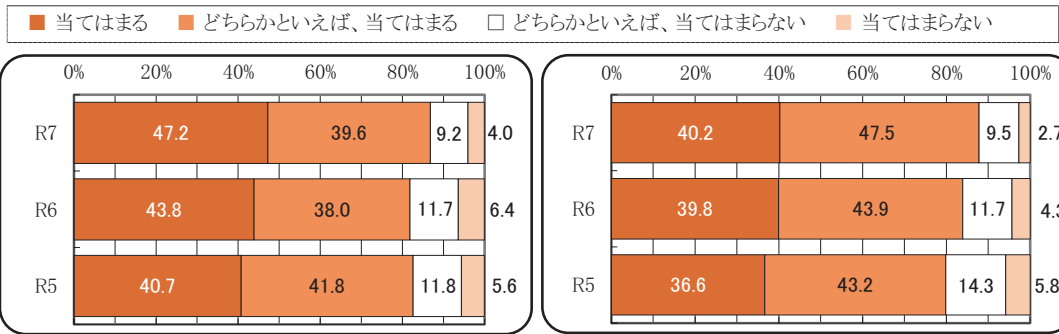
3 質問調査の結果

(1) 児童生徒質問調査

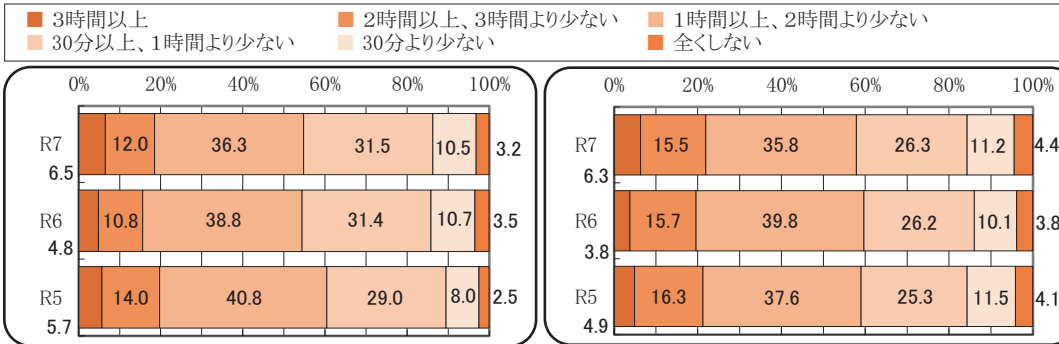
【小学校】

【中学校】

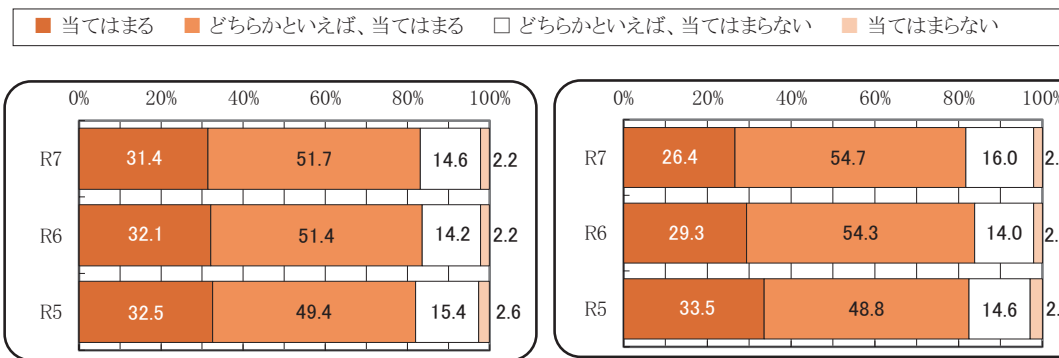
◇ 自分には、よいところがあると思いますか



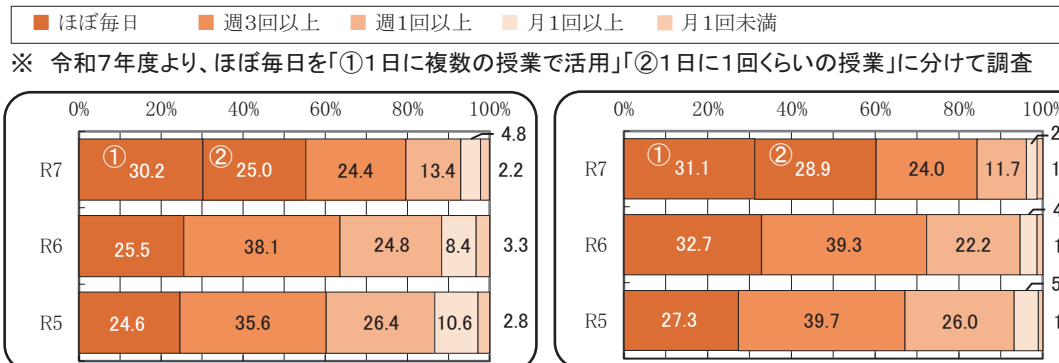
◇ 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



◇ 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

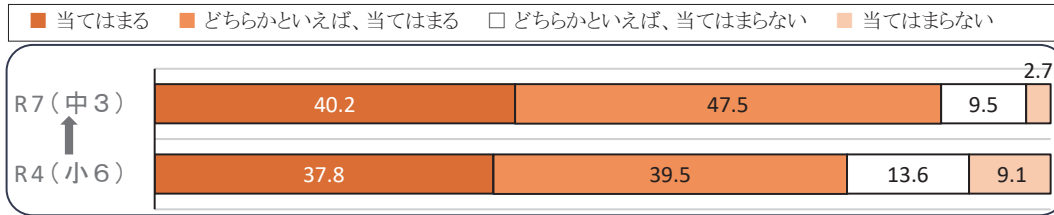


◇ 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

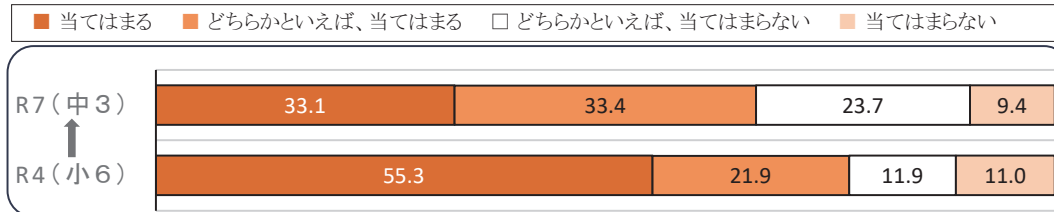


《同一集団における経年比較》※現中学3年生が小学6年生の時に回答した結果と比較

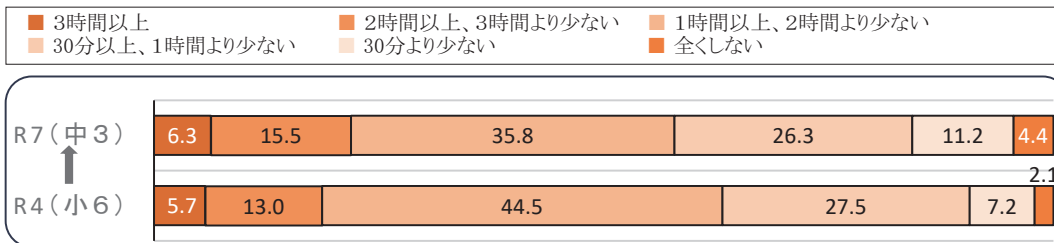
◇ 自分には、よいところがあると思いますか



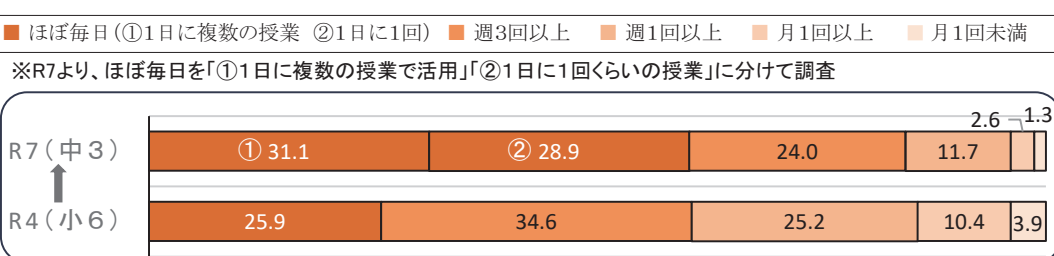
◇ 将来の夢や目標を持っていますか



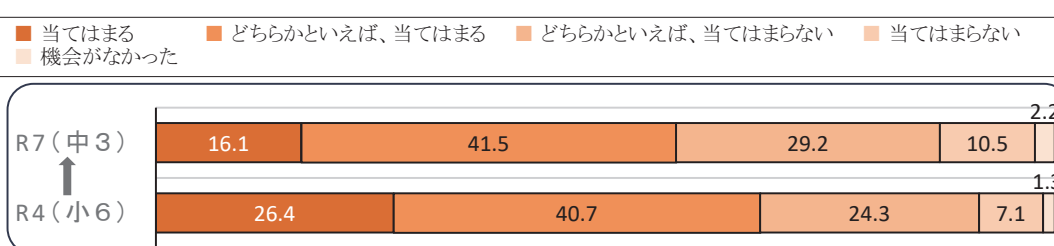
◇ 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



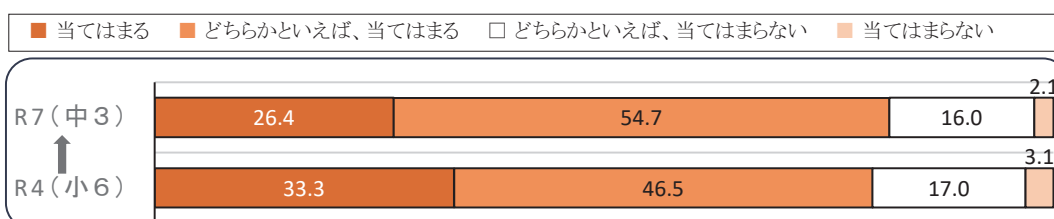
◇ 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



◇ 前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

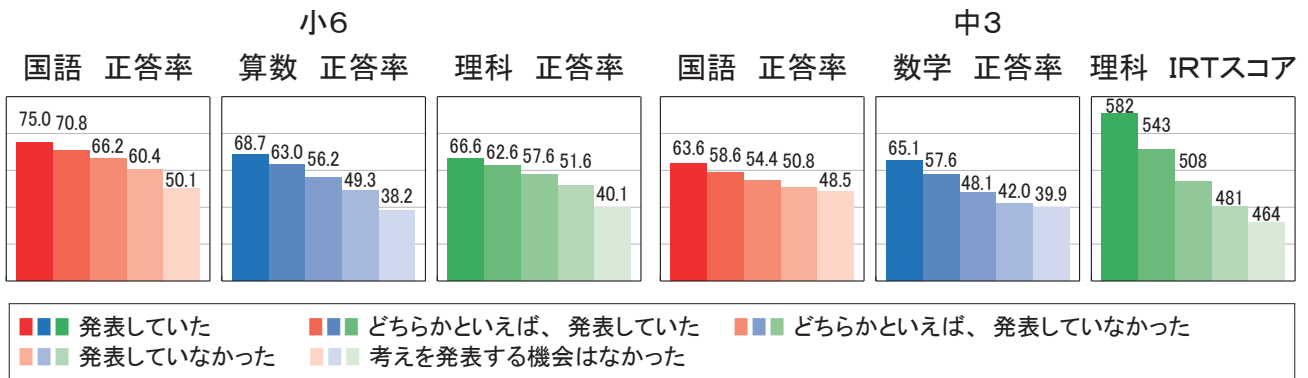


◇ 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

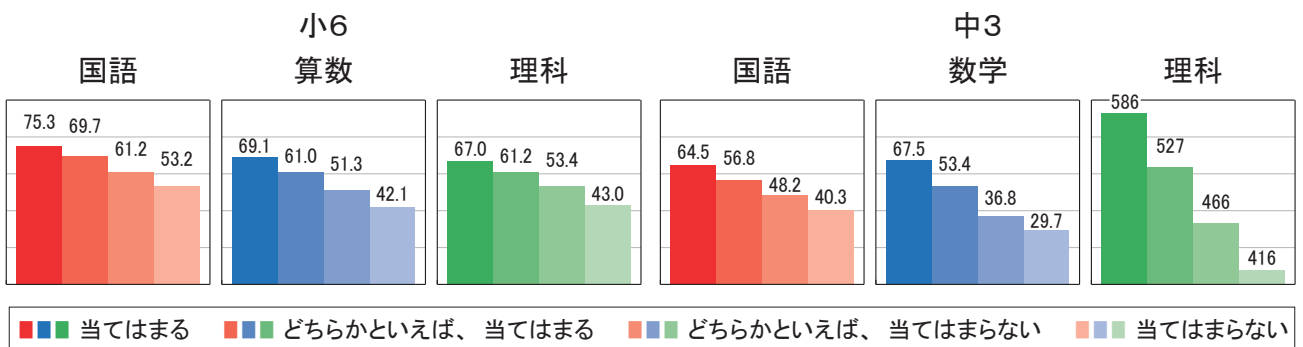


《正答率との関係》

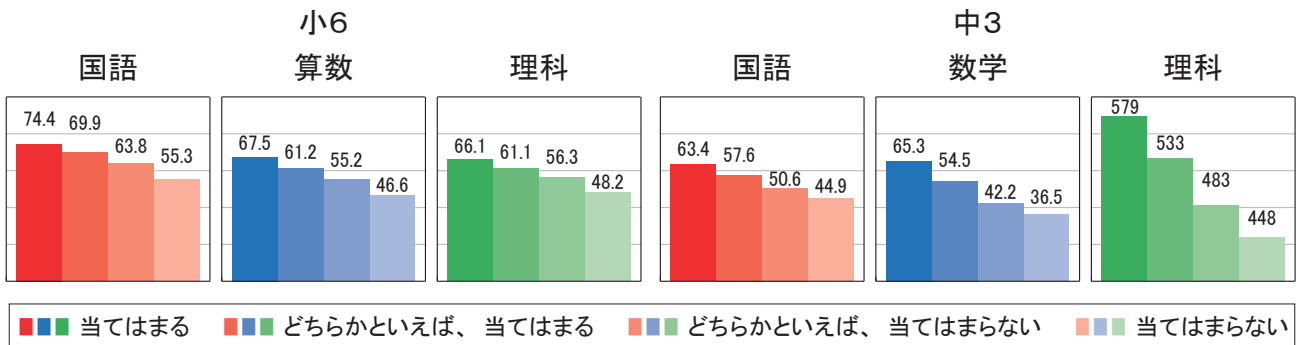
◇ 前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



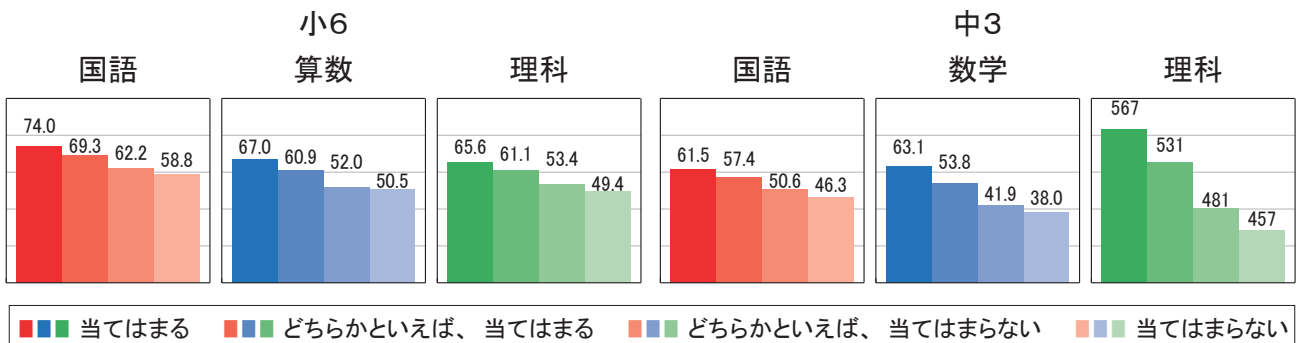
◇ 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



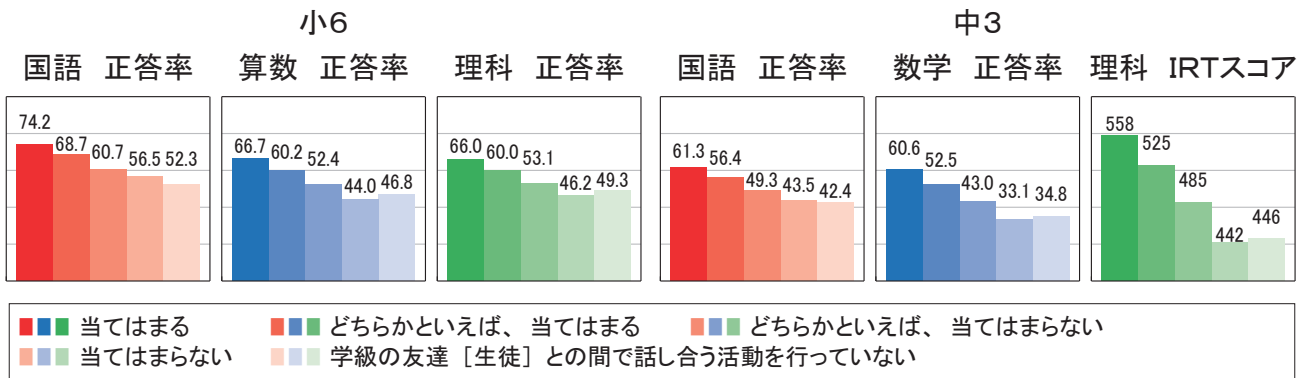
◇ 前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



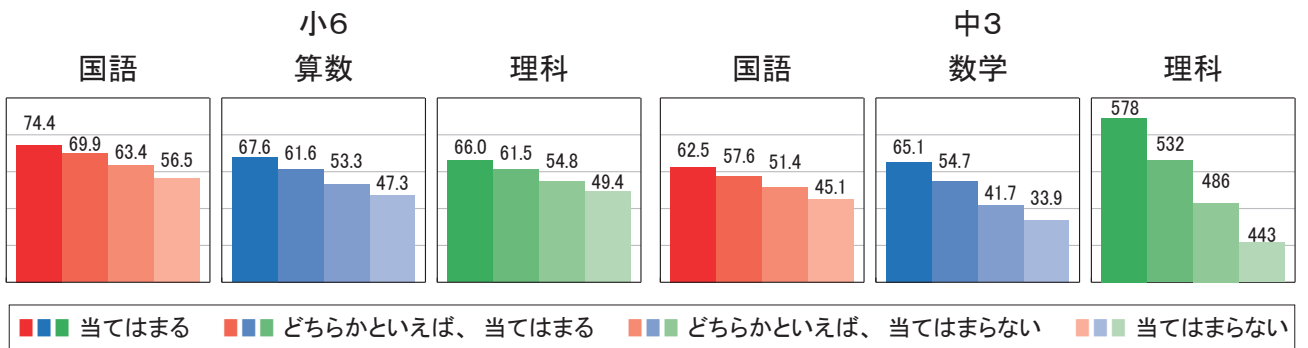
◇ 前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



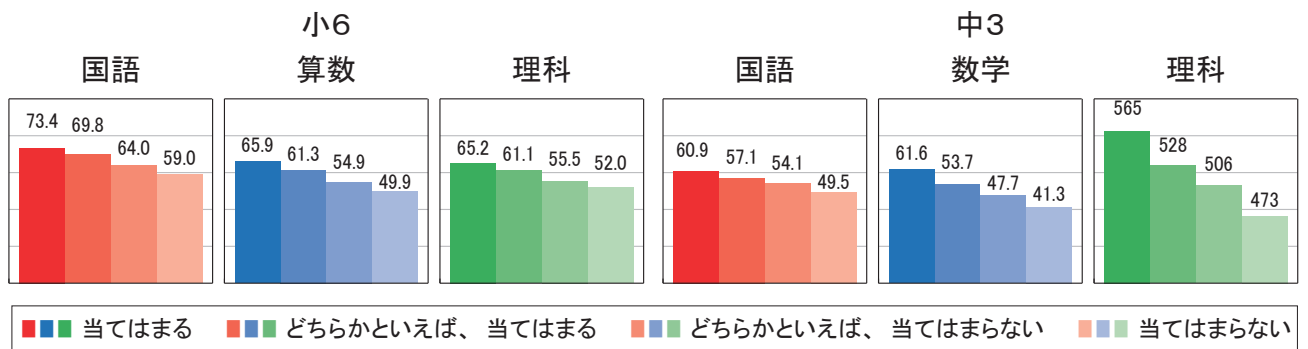
◇ 学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



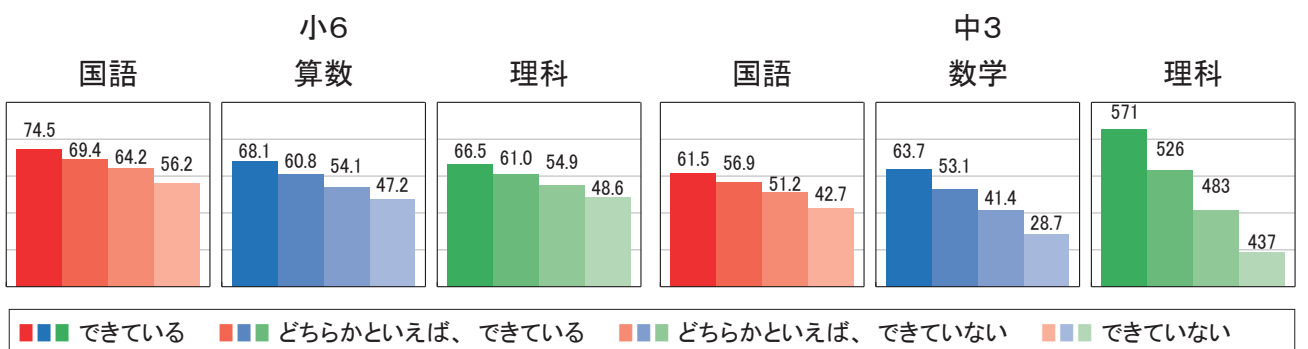
◇ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



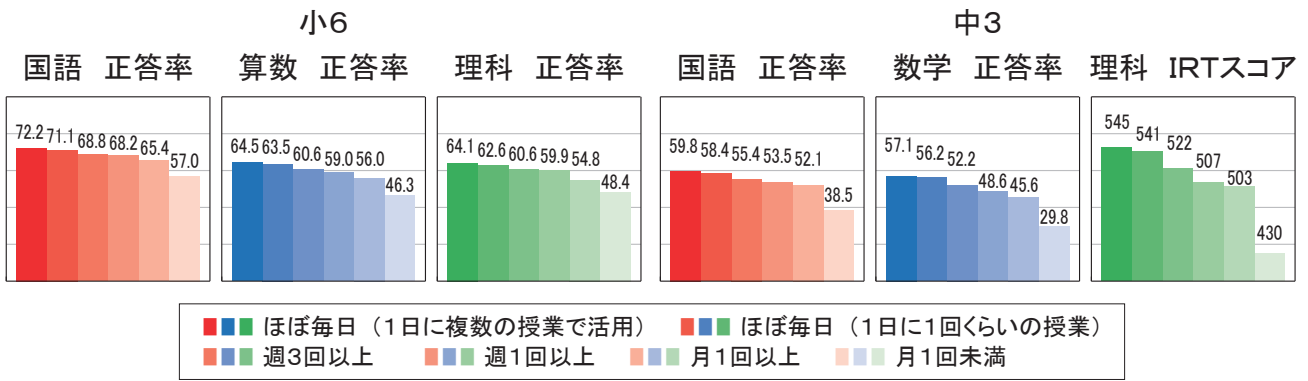
◇ 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか



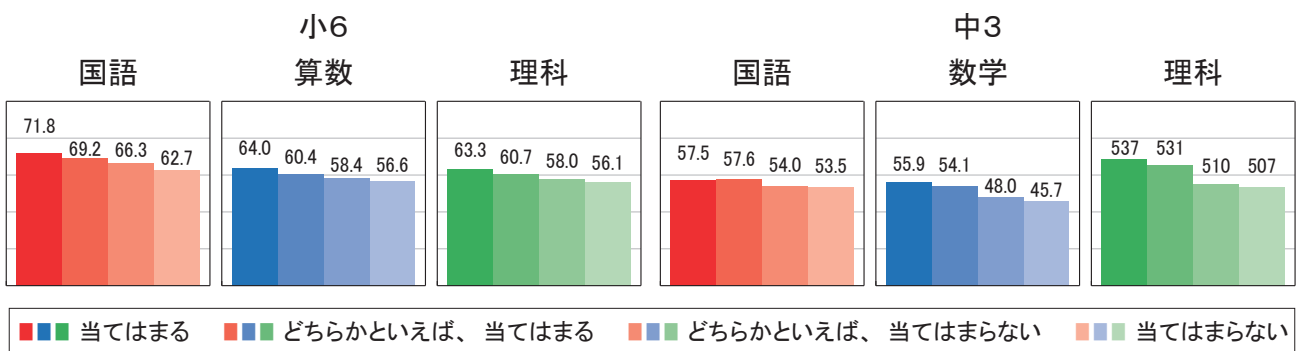
◇ 分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



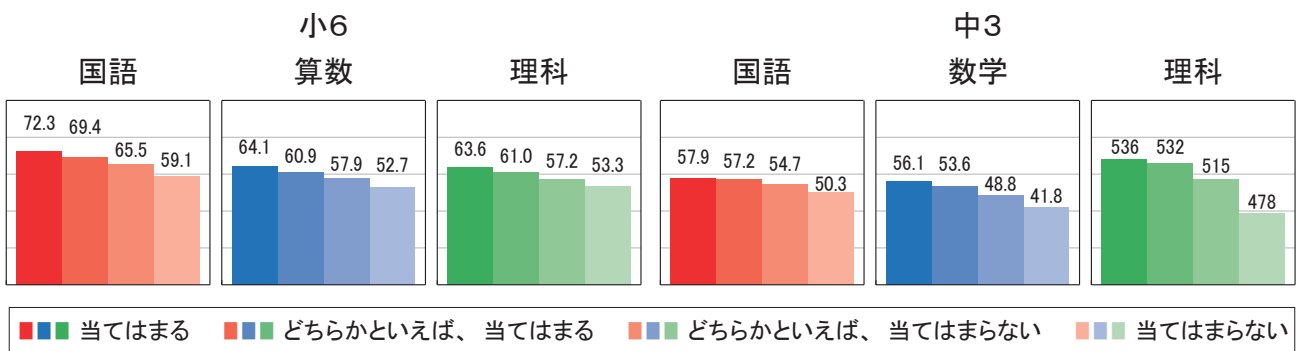
◇ 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



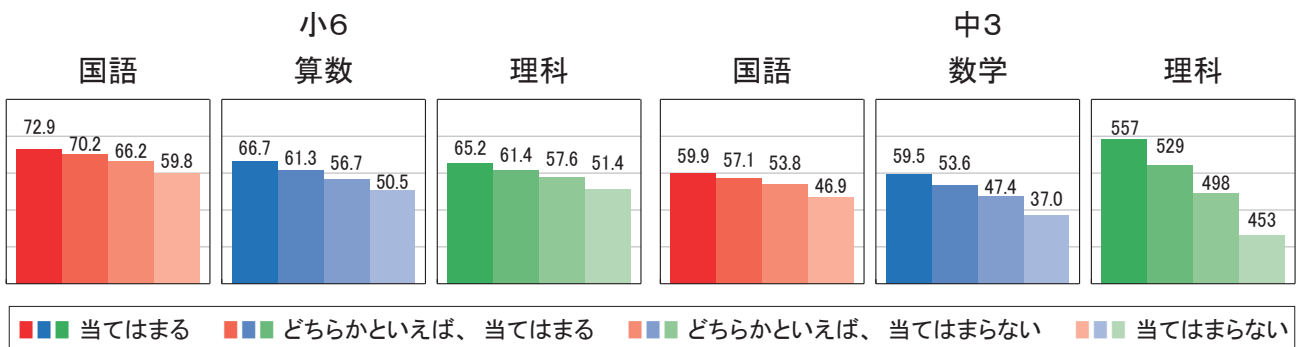
◇ 自分には、よいところがあると思いますか



◇ 学校に行くのは楽しいと思いますか



◇ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



<表記について>

△:全国より2ポイント以上高い

↑:前年度(前回)より2ポイント以上高い

▼:全国より2ポイント以上低い

※:未実施

*:ランダム方式のため公表なし

① 基本的な生活習慣等

項目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
朝食を毎日食べている	R7	94.4	93.7		93.8	91.2	△
	R6	94.7	93.7		94.3	91.2	△
	R5	94.9	93.9		93.6	91.2	△
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	R7	82.9	81.9		84.6	81.0	△
	R6	84.2	82.9		↑ 84.5	↑ 80.7	△
	R5	83.4	81.0	△	81.8	78.0	△
毎日、同じくらいの時刻に起きている	R7	91.7	91.0		93.8	92.6	
	R6	92.9	91.6		94.4	92.5	
	R5	91.6	90.5		93.9	91.3	△

② 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

項目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
自分には、よいところがあると思う	R7	↑ 86.8	↑ 86.9		↑ 87.7	↑ 86.2	
	R6	81.8	84.1	▼	↑ 83.7	↑ 83.3	
	R5	82.5	83.5		79.8	80.0	
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	R7	↑ 91.6	↑ 92.2		↑ 91.2	92.2	
	R6	89.0	89.9		↑ 89.1	↑ 90.4	
	R5	90.0	89.8		85.7	87.3	
将来の夢や目標を持っている	R7	80.6	83.1	▼	↑ 66.5	67.5	
	R6	79.3	82.4	▼	63.8	66.3	▼
	R5	79.1	81.5	▼	65.8	66.3	
人が困っているときは、進んで助けている	R7	93.7	93.7		91.6	90.9	
	R6	92.7	92.7		↑ 91.4	↑ 90.1	
	R5	91.6	91.6		89.1	88.1	
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	R7	97.5	97.2		96.7	95.9	
	R6	97.2	96.7		96.6	95.7	
	R5	97.3	96.9		95.7	95.5	
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	R7	↑ 68.1	↑ 70.6	▼	↑ 72.8	↑ 73.2	
	R6	62.8	67.1	▼	67.7	67.5	
	R5	67.9	68.5		67.7	66.4	

項目	小学校第6学年			中学校第3学年			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
人の役に立つ人間になりたいと思う	R7	97.0	96.4		97.0	96.6	
	R6	96.4	95.9		96.1	95.2	
	R5	96.4	95.9		94.7	94.6	
学校に行くのは楽しいと思う	R7	85.8	86.5		↑ 88.2	↑ 86.1	△
	R6	84.8	84.8		↑ 86.1	↑ 83.8	△
	R5	84.6	85.3		81.6	81.8	
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う	R7	↑ 78.2	↑ 78.1		↑ 81.3	↑ 79.2	△
	R6	74.5	75.8		78.3	76.2	△
	R5	76.5	76.5		78.5	77.6	
友達関係に満足している	R7	91.4	91.7		92.7	91.4	
	R6	91.7	91.1		91.4	90.1	
	R5	90.9	90.3		90.0	88.7	
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある	R7	92.6	93.0		92.9	91.6	
	R6	91.0	91.7		↑ 91.1	↑ 89.8	
	R5	91.2	91.0		88.4	86.8	

③ 学習習慣、学習環境等

項目	小学校第6学年			中学校第3学年			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている	R7	↑ 82.3	81.7		81.8	77.5	△
	R6	79.6	80.7		80.4	78.6	
	※	※	※		※	※	
普段(月曜日から金曜日)、1時間以上勉強(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)をしている	R7	54.8	54.0		57.6	61.6	▼
	R6	54.4	54.6		59.3	64.3	▼
	R5	60.5	57.1	△	58.8	65.8	▼
普段(月曜日から金曜日)、1時間以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っている	R7	19.1	19.6		12.6	13.7	
	R6	↑ 19.9	19.8		14.6	↑ 16.6	▼
	R5	16.3	17.9		12.8	13.4	
学校が休みの日に1日2時間以上勉強(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)をしている	R7	17.2	21.5	▼	33.9	32.5	
	R6	17.0	21.5	▼	37.8	36.2	
	R5	21.7	24.7	▼	40.4	40.0	
普段(月曜日から金曜日)、1日当たり30分以上、読書をしている(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)※R5から電子書籍も含む	R7	29.4	31.1		19.2	21.4	▼
	R5	35.1	37.3	▼	25.8	28.4	▼
	R4	34.4	36.4	▼	26.3	27.3	
新聞を週1回以上読んでいる	R7	11.4	10.5		7.6	5.7	
	R6	12.9	11.6		9.1	7.3	
	R5	14.6	12.6	△	10.2	8.1	△

項目	小学校第6学年			中学校第3学年			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
読書は好きだ	R7	71.5	69.7		61.9	61.6	
	R5	75.2	71.8	△	66.2	66.0	
	R4	75.5	73.1	△	71.5	68.2	△

④ 地域や社会に関わる活動の状況

項目	小学校第6学年			中学校第3学年			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあった	R7	80.4	80.6		77.3	75.7	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある(習い事は除く)	R7	40.0	39.4		28.9	29.5	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	R7	82.0	81.3		76.9	75.3	
	R6	↑ 84.2	↑ 83.5		↑ 80.2	↑ 76.1	△
	R5	79.6	76.8	△	68.2	63.9	△

⑤ ICTを活用した学習状況

項目	小学校第6学年			中学校第3学年			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
前学年までに受けた授業で、ほぼ毎日PC・タブレットなどのICT機器を使用した	R7	↑ 55.2	↑ 46.7	△	↑ 60.0	↑ 53.2	△
	R6	25.5	25.3		↑ 32.7	↑ 31.0	
	R5	24.6	28.2	▼	27.3	28.1	
PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くことなど)ができると思う	R7	85.2	81.8	△	86.4	83.6	△
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
インターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ができると思う	R7	90.5	89.8		92.5	91.5	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ができると思う	R7	71.5	69.3	△	67.6	63.3	△
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
PC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思う	R7	81.8	76.7	△	81.0	76.6	△
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	

項目	小学校第6学年			中学校第3学年			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	R7	83.8	81.3	△	*	*	
	R6	86.2	85.5		83.3	80.2	△
	※	※	※		※	※	
ICT機器を活用することで、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	R7	91.3	89.2	△	*	*	
	R6	92.5	92.1		94.9	93.9	
	※	※	※		※	※	
ICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる	R7	87.4	85.5		*	*	
	R6	87.4	86.0		85.6	82.4	△
	※	※	※		※	※	
画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	R7	90.1	88.1	△	*	*	
	R6	90.6	89.8		91.4	89.0	△
	※	※	※		※	※	
ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	R7	81.2	77.6	△	*	*	
	R6	80.6	79.2		82.1	77.7	△
	※	※	※		※	※	
ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	R7	88.1	84.6	△	*	*	
	R6	89.4	86.1	△	90.6	86.2	△
	※	※	※		※	※	
ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる	R7	89.6	87.5	△	*	*	
	R6	89.2	87.1	△	88.7	85.2	△
	※	※	※		※	※	

⑥ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

項目	小学校第6学年			中学校第3学年			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	R7	68.9	68.6		57.6	63.0	▼
	R6	↑ 67.4	↑ 67.6		60.5	↑ 64.8	▼
	R5	65.3	63.7		59.6	62.1	▼
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	R7	83.1	80.3	△	81.1	77.7	△
	R6	83.5	↑ 81.9		83.6	80.3	△
	R5	81.9	78.8	△	82.3	79.2	△
授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	R7	80.8	77.8	△	74.9	70.6	△
	R6	↑ 81.8	↑ 79.6	△	↑ 79.9	↑ 75.4	△
	R5	77.8	74.4	△	76.1	69.1	△
授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた	R7	85.9	83.4	△	82.9	79.3	△
	R6	87.1	84.3	△	↑ 84.3	↑ 80.9	△
	R5	85.9	82.9	△	79.2	74.9	△

項目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる	R7	86.7	84.9		86.4	84.7	
	R6	87.3	86.3		87.9	86.1	
	※	※	※		※	※	
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる	R7	81.0	79.4		75.5	73.4	△
	R6	↑ 81.7	↑ 80.8		↑ 79.2	↑ 77.9	
	R5	78.7	77.4		71.4	69.2	△
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う	R7	82.9	82.5		76.3	74.8	
	R6	82.5	83.7		79.2	79.0	
	※	※	※		※	※	
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う	R7	89.0	87.4		85.2	83.8	
	R6	89.6	87.9		86.6	84.9	
	R5	94.7	93.0		89.3	88.9	
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	R7	93.3	91.9		93.1	91.9	
	R6	92.6	91.6		93.9	92.3	
	※	※	※		※	※	

⑦ 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳

項目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	R7	85.9	82.3	△	85.6	79.5	△
	R6	↑ 84.5	↑ 81.3	△	↑ 87.9	↑ 82.2	△
	R5	79.5	74.8	△	83.5	72.6	△
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会[学級活動]で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている	R7	86.7	83.3	△	86.7	84.3	△
	R6	↑ 87.8	↑ 84.2	△	↑ 89.7	↑ 86.3	△
	R5	82.7	77.2	△	82.5	77.9	△
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる	R7	83.4	80.8	△	80.9	77.3	△
	R6	↑ 85.7	↑ 82.5	△	↑ 84.3	↑ 80.6	△
	R5	79.2	75.7	△	76.8	71.6	△
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	R7	89.1	88.0		91.7	91.5	
	R6	↑ 88.5	↑ 88.2		↑ 92.0	↑ 91.7	
	R5	86.0	83.6	△	88.0	86.3	

⑧ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語)

項目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
国語の勉強は得意だ	R7	57.2	61.4	▼	52.0	51.4	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	

項目	小学校第6学年			中学校第3学年			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
国語の勉強は好きだ	R7	55.8	58.3	▼	57.4	57.9	
	R6	62.2	62.0		↑ 68.6	↑ 64.3	△
	R5	61.3	61.5		65.2	61.4	△
国語の授業の内容はよく分かる	R7	82.5	82.8		78.0	77.0	
	R6	87.6	86.3		↑ 86.2	↑ 82.7	△
	R5	87.7	85.7	△	83.3	80.0	△
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	R7	90.8	90.4		89.1	88.3	
	R6	93.7	93.2		↑ 92.5	90.6	
	R5	94.3	92.8		89.8	88.7	
国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれる	R7	77.9	78.2		72.1	72.9	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれる	R7	74.6	75.5		71.0	70.2	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いている	R7	82.9	81.8		※	※	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている	R7	80.9	79.1		※	※	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えている	R7	※	※		76.0	74.0	△
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えている	R7	※	※		76.0	73.6	△
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	

⑨ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(算数・数学)

項目	小学校第6学年			中学校第3学年			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
算数・数学の勉強は得意だ	R7	62.8	60.3	△	51.1	46.0	△
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
算数・数学の勉強は好きだ	R7	60.8	57.9	△	57.4	53.8	△
	R6	63.3	61.0	△	60.7	57.2	△
	R5	66.1	61.4	△	62.1	56.7	△

項 目	小学校第6学年			中学校第3学年			
	本県 (%)	全国 (%)	比較	本県 (%)	全国 (%)	比較	
算数・数学の授業の内容はよく分かる	R7	80.2	78.3		75.4	70.3	△
	R6	85.1	82.1	△	78.0	↑ 75.7	△
	R5	85.4	81.2	△	78.1	73.3	△
算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	R7	93.0	91.6		78.5	75.2	△
	R6	95.4	94.1		80.7	↑ 78.5	△
	R5	95.3	93.3	△	79.4	75.8	△
算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている	R7	83.4	83.3		60.8	57.9	△
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える	R7	83.7	82.3		79.3	76.2	△
	R6	84.1	↑ 83.3		79.9	↑ 78.1	
	R4	82.2	80.4		79.0	75.2	△
算数・数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている	R7	70.9	65.5	△	66.1	58.6	△
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしている	R7	83.4	80.6	△	※	※	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができる	R7	※	※		70.9	67.1	△
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	

⑩ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(理科)

項 目	小学校第6学年			中学校第3学年			
	本県 (%)	全国 (%)	比較	本県 (%)	全国 (%)	比較	
理科の勉強は得意だ	R7	76.4	78.4	▼	58.2	50.7	△
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
理科の勉強は好きだ	R7	78.4	80.1		69.4	63.8	△
	R6	↑ 83.0	↑ 83.6		75.8	68.3	△
	R4	80.8	79.7		73.9	66.4	△
理科の授業の内容はよく分かる	R7	88.9	88.9		77.4	71.4	△
	R4	90.0	88.5		↑ 83.2	↑ 75.2	△
	H30	89.5	89.4		74.0	70.0	△
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	R7	81.3	↑ 79.9		68.6	63.4	△
	R4	↑ 80.8	↑ 77.2	△	↑ 69.1	↑ 61.5	△
	H30	74.5	72.9		61.9	55.7	△

項目	小学校第6学年			中学校第3学年			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う	R7	28.2	↑ 30.0		23.4	21.7	
	R4	27.0	26.6		24.9	22.1	△
	H30	27.3	26.1		23.8	22.2	
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できている	R7	63.8	63.2		※	※	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できている	R7	※	※		59.2	54.7	△
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できている	R7	※	※		56.8	50.7	△
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしている	R7	70.5	68.9		60.2	56.2	△
	R6	82.8	83.2		74.6	70.7	△
	※	※	※		※	※	
理科の授業では、観察や実験をよく行っている	R7	93.7	92.4		91.4	85.8	△
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるのか、自分で予想(仮説)を考えている	R7	87.2	85.7		※	※	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている[結果をもとに考察している]	R7	↑ 89.9	↑ 88.4		※	※	
	R4	↑ 86.9	↑ 84.9	△	↑ 84.5	↑ 78.9	△
	H30	84.0	81.8	△	78.1	72.3	△
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている	R7	↑ 77.8	↑ 76.0		※	※	
	R4	↑ 74.6	↑ 72.2	△	↑ 73.6	↑ 68.1	△
	H30	70.7	68.1	△	63.2	59.0	△
理科の授業では、自分の予想(仮説)をもとに観察や実験の計画を立てている	R7	※	※		75.2	70.2	△
	R6	↑ 87.5	↑ 85.6		↑ 77.4	↑ 71.5	△
	R4	80.4	78.0	△	70.4	64.5	△
理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っている	R7	※	※		74.7	68.4	△
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	

<表記について>
 △:全国より2ポイント以上高い ↑:前年度(前回)より2ポイント以上高い
 ▼:全国より2ポイント以上低い ※:未実施

① 生徒指導等

項目	小学校			中学校		
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
熱意をもって勉強している	R7	91.7	90.3	↑ 94.2	86.5	△
	R5	91.1	91.1		90.6	88.7
	R1	89.2	91.1		89.4	89.3
授業中の私語が少なく、落ち着いている	R7	87.5	85.9	↑ 96.5	92.0	△
	R6	88.9	85.5	△	91.5	93.8
	R5	89.1	87.6		95.3	95.1
前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした	R7	88.5	86.1	△	97.6	98.4
	R5	89.6	86.5	△	100.0	98.6
	R4	87.7	84.6	△	100.0	98.5
近視の予防の一環として、学校の休み時間や放課後などの時間に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たったの配慮事項について指導した	R7	93.8	95.3		69.8	▼
	※	※	※		※	※
	※	※	※		※	※

② 学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況

項目	小学校			中学校			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
月に数回程度以上、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行った	R7	↑ 86.9	79.1	△	72.1	64.9	△
	R6	82.1	↑ 78.9	△	↑ 76.9	↑ 64.7	△
	R5	83.1	76.5	△	72.9	61.4	△
月に数回程度以上、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行った	R7	↑ 93.3	88.5	△	79.0	78.0	
	R6	86.9	87.5		81.7	↑ 77.3	△
	R5	90.1	86.7	△	83.5	75.3	△
教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している	R7	98.4	96.6		95.3	94.4	
	R5	↑ 99.0	↑ 96.3	△	↑ 97.7	↑ 94.1	△
	R1	95.6	93.7		87.0	88.1	
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している	R7	98.4	97.1		96.5	96.0	
	R6	97.9	97.0		96.4	96.5	
	R5	97.5	96.2		97.6	95.2	△
指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている	R7	97.4	97.5		96.6	92.1	△
	R6	98.4	97.3		↑ 98.8	↑ 91.8	△
	R5	97.5	95.5	△	95.3	88.5	△
言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいる	R7	↑ 99.0	96.3	△	96.5	94.7	
	R6	95.3	96.0		97.5	94.2	△
	R5	97.5	95.6		96.4	93.4	△

項目	小学校			中学校			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている	R7	100.0	98.6	↑	100.0	95.3	△
	R6	99.5	98.6		97.6	94.8	△
	R5	100.0	98.5		100.0	94.7	△
個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している(オンラインでの参加を含む)	R7	93.7	↑ 89.6	△	93.1	↑ 87.5	△
	R6	92.1	↑ 86.4	△	↑ 93.9	↑ 84.1	△
	R5	95.1	84.2	△	91.8	81.1	△
学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員(支援スタッフを含む。)の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしている	R7	99.4	99.6		100.0	99.2	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多い	R7	92.8	91.0	↑	95.3	89.7	△
	R6	91.1	91.0		89.0	90.6	
	※	※	※		※	※	
教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築している	R7	99.0	99.3		98.9	99.1	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されている	R7	89.6	↑ 92.7	▼	↑ 91.9	90.9	
	R6	90.5	90.1		87.8	89.5	
	※	※	※		※	※	

③ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

項目	小学校			中学校			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている	R7	92.7	89.3	△	93.0	88.2	△
	R6	91.1	88.2	△	91.4	88.4	△
	R5	93.5	88.9	△	94.2	88.0	△
児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている	R7	79.1	↑ 80.4		↑ 88.4	82.8	△
	R6	↑ 77.9	78.3		84.2	82.7	
	R5	75.2	79.0	▼	88.2	81.6	△
児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている	R7	↑ 87.0	↑ 89.2	▼	↑ 97.7	90.8	△
	R6	87.4	87.2		92.6	89.7	△
	R5	88.1	87.7		94.1	88.8	△
授業や学校生活では、児童生徒が、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	R7	95.3	94.2		97.6	95.1	△
	R6	96.3	93.6	△	97.5	96.1	
	※	※	※		※	※	
授業では、児童生徒が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている	R7	↑ 71.4	↑ 64.1	△	↑ 65.2	56.6	△
	R6	66.3	61.2	△	54.9	55.3	
	※	※	※		※	※	
学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫した	R7	↑ 89.6	91.0		91.9	87.8	△
	R6	86.3	90.3	▼	91.5	86.3	△
	R5	92.0	93.1		90.6	90.9	

項目	小学校			中学校			
	本県 (%)	全国 (%)	比較	本県 (%)	全国 (%)	比較	
学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した	R7	97.4	95.3	△	96.5	95.0	
	R6	95.8	94.5		↑ 100.0	94.0	△
	R5	95.1	94.3		94.1	94.2	
授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	R7	91.2	89.9		87.2	86.1	
	R6	92.1	89.3	△	↑ 90.2	85.1	△
	R5	92.6	90.4	△	83.6	87.0	▼
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした	R7	92.2	88.6	△	88.4	86.8	
	R6	91.0	87.4	△	↑ 90.2	86.6	△
	R5	91.6	89.0	△	84.7	87.7	▼
各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた	R7	89.6	86.9	△	74.4	80.3	▼
	R6	↑ 91.1	85.7	△	↑ 84.2	78.6	△
	R5	89.1	85.6	△	75.3	78.6	▼
教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った	R7	↑ 92.7	↑ 85.9	△	↑ 88.3	82.1	△
	R4	85.2	82.6	△	80.0	80.4	
	H30	85.6	85.1		87.7	81.7	△

④ 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法

項目	小学校			中学校			
	本県 (%)	全国 (%)	比較	本県 (%)	全国 (%)	比較	
総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている	R7	95.3	92.7	△	94.1	91.5	△
	R6	↑ 94.7	91.9	△	95.2	90.9	△
	R5	91.6	92.7		94.1	92.1	△
学級生活をよりよくするために、学級会[学級活動]で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っている	R7	96.9	94.9	△	90.6	94.2	▼
	R6	96.9	94.2	△	89.1	94.0	▼
	R5	95.0	94.3		88.2	93.9	▼
学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている	R7	96.9	93.8	△	88.4	92.6	▼
	R6	96.3	92.6	△	90.3	92.4	▼
	R5	95.5	93.1	△	90.6	92.0	
特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている	R7	98.5	96.6		98.9	97.1	
	R6	97.4	96.0		↑ 97.5	96.3	
	R5	98.6	96.5	△	94.1	96.9	▼

⑤ 学習評価

項目	小学校			中学校			
	本県 (%)	全国 (%)	比較	本県 (%)	全国 (%)	比較	
学習評価の方針を児童生徒に示した上で、児童生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かすことを心がけた	R7	↑ 92.2	89.5	△	94.2	95.8	
	R5	87.1	90.3	▼	98.8	96.2	△
	※	※	※		※	※	

⑥ 国語科の指導方法

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
学習状況に即して児童生徒のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行った	R7	99.5	95.7	△	96.5	96.8	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
児童生徒に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることを行った	R7	98.0	94.9	△	96.5	96.4	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行った	R7	↑ 99.0	95.8	△	※	※	
	R6	95.8	94.9		※	※	
	※	※	※		※	※	
目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる指導を行った	R7	99.0	95.9	△	※	※	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるような指導を行った	R7	※	※		98.8	97.8	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるような指導を行った	R7	※	※		96.5	95.5	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	

⑦ 算数・数学科の指導方法

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行った	R7	↑ 96.3	91.3	△	94.2	89.6	△
	R6	94.2	92.3		93.9	88.5	△
	R5	93.1	92.1		93.0	88.0	△
具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする[観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす]活動を行った	R7	↑ 97.9	95.1	△	91.9	85.5	△
	R6	↑ 95.8	94.6		90.3	85.7	△
	R5	93.6	94.6		89.4	84.3	△
問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行った	R7	95.3	96.3		97.7	95.6	△
	R6	97.9	96.2		96.4	94.8	
	※	※	※		※	※	
授業で、学習上つまづいた児童生徒に対する対応を行った	R7	96.9	97.0		97.7	95.8	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	

⑧ 理科の指導方法

項目	小学校			中学校						
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較				
自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行った	R7	96.3	95.0	↑	100.0	96.2	△			
	R6	96.3	95.3		↑	97.6	△			
	R4	94.6	93.9			92.9				
日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行った	R7	97.9	95.7	△	↑	100.0	97.7	△		
	R6	96.9	96.0			96.3	97.0			
	R4	96.0	94.2			95.3	96.8			
問題に対して、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導を行った	R7	98.0	96.7		↑	100.0	↑	93.9	△	
	R6	↑	96.9	94.8	△	↑	89.0	↑	84.1	△
	R4		92.2	93.8			75.3		79.2	▼
観察や実験の結果を整理し考察する(分析し解釈する)指導を行った	R7	↑	98.4	98.3		100.0	↑	97.2	△	
	R4		95.0	97.1	▼	↑	98.9		94.6	△
	H30		97.6	96.0			96.6		94.3	△
課題解決の過程における自分や友だちの学びの深まりや疑問に思ったことを振り返ることができるような指導を行った	R7	93.3	93.2		93.0	90.2	△			
	※	※	※		※	※				
	※	※	※		※	※				
前年度に、児童生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たり月1回以上行った	R7	99.4	↑	98.1		97.7	↑	95.7	△	
	R4	99.0		96.0	△	98.9		91.2	△	
	H30	98.6		97.4		97.8		97.7		

⑨ ICTを活用した学習状況

項目	小学校			中学校						
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較				
教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たり週1回以上行った	R7	100.0	97.9	△	96.5	97.2				
	R6	100.0	97.6	△	100.0	97.2	△			
	R5	98.5	95.8	△	98.9	95.8	△			
教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がある	R7	99.0	95.7	△	↑	97.7	90.8	△		
	R6	100.0	95.1	△		92.7	90.8			
	R5	100.0	95.9	△		97.7	91.5	△		
コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられている	R7	↑	94.8	89.7	△	90.7	85.4	△		
	R6		91.1	88.9	△	↑	95.2	↑	84.6	△
	R5		95.1	87.4	△		87.1		82.5	△
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用している	R7	90.7	84.8	△	89.5	82.8	△			
	※	※	※		※	※				
	※	※	※		※	※				
自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用させた	R7	93.7	95.5		97.6	93.5	△			
	R6	96.8	↑	97.0		↑	97.6	↑	93.5	△
	R5	96.0		94.9		95.3		91.0	△	

項目	小学校			中学校			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用させた	R7	87.5	81.2	△	90.8	81.3	△
	R6	↑ 92.2	↑ 83.6	△	↑ 97.6	↑ 82.1	△
	R5	84.7	76.4	△	94.2	76.2	△
教職員と児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用させた	R7	89.6	83.4	△	88.3	80.2	△
	R6	↑ 89.6	↑ 83.2	△	↑ 90.3	↑ 81.8	△
	R5	83.7	78.4	△	80.0	75.7	△
児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用させた	R7	85.4	73.6	△	75.6	66.4	△
	R6	↑ 84.2	↑ 73.8	△	↑ 85.4	↑ 69.6	△
	R5	75.3	68.5	△	77.6	62.2	△
児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用させた	R7	↑ 87.6	82.1	△	68.6	72.1	▼
	R6	↑ 85.3	↑ 83.6		↑ 84.1	↑ 74.0	△
	R5	74.2	77.9	▼	65.9	67.5	
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童生徒が学校外の施設(他の学校や社会教育施設、民間企業等)にいる人々とやりとりする取組を月1回以上実施した	R7	4.2	6.0		↑ 4.6	6.9	▼
	R6	↑ 7.4	6.4		2.4	5.0	▼
	R5	5.0	5.0		3.5	5.8	▼
教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器を活用している	R7	79.6	↑ 78.0		↑ 82.6	↑ 78.3	△
	R6	↑ 81.6	↑ 71.7	△	↑ 74.4	↑ 72.9	
	R5	67.3	62.8	△	58.9	61.6	▼
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を持ち帰って利用させている	R7	96.9	↑ 89.0	△	87.2	↑ 87.2	
	R6	96.9	↑ 86.3	△	↑ 85.4	↑ 84.4	
	R5	96.5	81.3	△	74.2	76.9	▼

⑩ 特別な配慮が必要な児童生徒への指導

項目	小学校			中学校			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、不登校児童生徒に対する学習活動等の支援に週1回以上活用している	R7	36.9	36.9		38.4	53.5	▼
	R6	37.8	38.8		43.9	52.9	▼
	R5	41.4	43.0		45.9	54.5	▼
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、希望する不登校児童生徒に対する授業配信に週1回以上活用している	R7	31.3	26.0	△	35.0	↑ 40.3	▼
	R6	37.9	28.6	△	34.1	35.6	
	※	※	※		※	※	
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援に週1回以上活用している	R7	↑ 67.2	65.4		54.6	62.3	▼
	R6	60.0	63.5	▼	63.4	63.0	
	R5	69.3	67.2	△	61.2	63.1	
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、外国人児童生徒に対する学習指導等の支援に週に1回以上活用している	R7	↑ 14.5	↑ 25.0	▼	↑ 14.0	↑ 24.9	▼
	R6	11.6	20.3	▼	7.3	21.8	▼
	R5	9.5	19.3	▼	8.3	17.4	▼
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、児童生徒の心身の状況の把握に週に1回以上活用している	R7	↑ 51.1	↑ 42.0	△	↑ 65.2	↑ 41.1	△
	R6	28.4	31.9	▼	42.6	37.1	△
	R5	29.2	35.5	▼	42.4	35.9	△

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援に週に1回以上活用している	R7	↑ 20.9	↑ 13.7	△	↑ 24.4	17.2	△
	R6	6.3	11.4	▼	10.9	15.4	▼
	R5	10.0	13.5	▼	8.3	17.5	▼
障害のある児童生徒が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援を実施している	R7	↑ 24.5	↑ 19.4	△	↑ 10.4	15.1	▼
	R6	↑ 20.5	17.4	△	4.8	14.0	▼
	R5	18.4	16.0	△	11.8	13.4	
授業の中で、障害のある児童生徒を念頭に置いた指導上の工夫を行った	R7	96.4	97.4		98.8	96.9	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じて、人的支援の配慮を行った	R7	75.0	73.7		79.1	71.6	△
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じて、情報の取得、利用及び意思疎通への配慮を行った	R7	56.7	52.7	△	44.1	50.2	▼
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じて、ルール・慣行の柔軟な変更を行った	R7	56.8	59.1	▼	45.3	55.8	▼
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	

⑪ 小学校教育と中学校教育の連携

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
近隣等の小学校[中学校]と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った	R7	63.1	65.3	▼	77.9	↑ 71.7	△
	R6	64.8	↑ 64.0		78.0	↑ 69.0	△
	R5	63.3	60.6	△	76.5	66.8	△

⑫ 家庭や地域との連携等

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
(小学校)職場見学を行っている (中学校)職場体験活動を1日以上行った	R7	28.6	45.1	▼	↑ 80.2	↑ 79.8	
	R6	28.9	↑ 43.2	▼	↑ 64.6	↑ 76.1	▼
	R5	30.2	39.6	▼	29.4	54.1	▼
教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている	R7	↑ 84.4	↑ 89.3	▼	↑ 82.5	↑ 87.8	▼
	R5	↑ 79.2	↑ 86.7	▼	↑ 78.8	↑ 83.2	▼
	R4	73.4	82.0	▼	72.9	79.7	▼
コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映している	R7	85.4	95.1	▼	75.6	93.2	▼
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	

項目	小学校			中学校			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行った	R7	84.3	89.2	▼	63.9	79.5	▼
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった	R7	88.1	↑ 93.3	▼	↑ 76.7	↑ 89.0	▼
	R6	↑ 86.8	↑ 88.9	▼	↑ 74.3	↑ 84.1	▼
	R5	77.2	86.1	▼	63.5	79.3	▼
コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、「社会に開かれた教育課程」の実現に効果があった	R7	87.5	92.6	▼	74.4	87.0	▼
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	
コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果があった	R7	66.1	61.9	△	51.1	49.8	
	※	※	※		※	※	
	※	※	※		※	※	

⑬ 家庭学習

項目	小学校			中学校			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた	R7	98.9	96.6	△	97.7	92.8	△
	R6	99.5	96.1	△	98.7	91.9	△
	R5	99.0	95.7	△	97.6	90.9	△
家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行った	R7	↑ 97.4	90.6	△	88.4	85.9	△
	R6	93.7	89.7	△	93.9	84.0	△
	※	※	※		※	※	
学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かした	R7	↑ 95.9	↑ 90.4	△	87.2	84.0	△
	R6	90.0	87.8	△	90.3	82.8	△
	R5	91.6	90.6		89.4	84.4	△

⑭ 全国学力・学習状況調査の結果の活用

項目	小学校			中学校			
	本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較	
令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した	R7	100.0	96.5	△	98.9	94.0	△
	R6	100.0	96.8	△	100.0	94.1	△
	R5	100.0	96.0	△	100.0	93.0	△
令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)	R7	87.0	89.0	▼	82.6	83.4	
	R6	89.5	89.5		86.5	↑ 83.2	△
	R5	96.0	88.0	△	96.5	81.1	△

令和7年度

全国学力・学習状況調査 一結果の概要一

令和7年11月発行

石川県教育委員会事務局学校指導課

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

TEL.076-225-1827

e-mail : gakusi@pref.ishikawa.lg.jp